



目 次

| | | |
|--------------------------|--------------------|----|
| 薬用植物の紹介 | 薬用植物園長 草野 源次郎 | 1 |
| 新入生の皆さんへ | 学長 矢内原 千鶴子 | 2 |
| 特別講演会「女性と人権」を終えて | 人権委員会委員長 稲森 善彦 | 3 |
| 大型機器設置報告 | 研究委員長 石田 寿昌 | 4 |
| 卒業者の進路状況と卒業予定者の進路希望調査 | 就職部 | 5 |
| 薬剤師国家試験の結果 | 薬剤師国家試験対策委員長 中元 安雄 | 8 |
| 平成12年度入学試験結果と平成13年度入学試験 | 入試・広報課 | 9 |
| 公開教育講座、市民講座、科学研究費補助金採択状況 | | 11 |
| 各課だより、前期行事予定 | | 12 |
| 健康管理について | | 14 |
| 学校法人予算について | 事務局長 河野 光次 | 15 |
| 法人・学内関係人事 | | 16 |
| 各部・委員会・委員一覧 | | 17 |
| 教員研究業績一覧（1999年） | | 19 |

イチョウ *Ginkgo biloba* L.

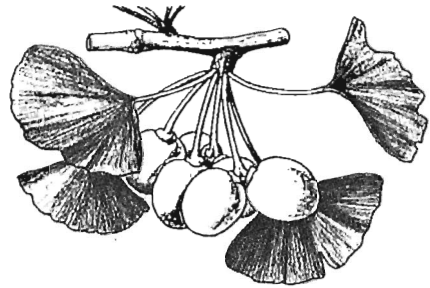
種子植物門，裸子植物亜門，イチョウ綱，イチョウ科イチョウ属の高木である。葉脈が二又に分かれる等の特徴は古生代末に出現したトリコピチスまで遡る。イチョウの名前の由来は葉が一枚の「一葉」が変化したとする説（貝原益軒）や鴨脚（葉の形、ヤチャオ）が訛ったとする説（大言海）がある。漢名の銀杏は果実（実は種子）がアズキの実に似ていて銀色（成熟すると黄色）であるというのであろう。ギンナンから訛ってギンナンとなったといわれている。公孫樹という漢名もある。祖父が植えて、孫が種子を収穫する樹であるという意味である。学名はリンネがつけたが、Ginkjo（銀杏）とすべきところをGinkgoと誤写したといわれている。

中国原産で、現在中国の自生は浙江省にわずかに見られるという。日本原産説もある。観音像のある境内に老樹が多く、百済観音と同時代の渡来説が有力である。日本人が大切に扱ってきた植物で、話題は尽きない。各地で名木や神木にされ、伝説も多い。ケンペル（オランダ商館のドイツ人医師、1690年来日）は日本の植物を調査し、『異国の魅力』を著し、イチョウをドイツに持ち帰り、各地に植栽した。65歳のゲーテは「イチョウ」という題の詩と押葉を恋慕う人妻に贈った。2枚が合体したように見える葉に特別な想いを託したといわれている。「般若の面」は源実朝の実母が幽閉され、銀杏の風呂に入れられて、皮膚炎を起こした顔に似せたと言ったことがある。あの悲しさに圧倒されたように見える顔は実朝の暗殺を聞き、物陰で嘆き悲しんでいる顔であるという。

平瀬作五郎（1896年）はイチョウの精子を発見した。種子植物として最初の例であり、植物学研究に大きな衝撃を与えた。その発見の場となったイチョウの大木は今も東京大学附属植物園（小石川植物園）で生き続けており、その樹の根元には発見の経緯が書かれている。植物園の助手であった平瀬は観察したことを丹念にスケッチすることを日課にしており、未熟な果実で花粉が精子になっていく様子を、連続写真を見るように発見したと書かれている。

中西香爾等（1967年）はギンゴリドの構造研究中、核オーバーハウザー効果（NOE）の実例を発見した。ギンゴリド類は複雑な構造を有しており、構造決定は快挙であった。NMR測定を担当した三浦技官は工業高等専門学校卒業生で、注意深い測定をした。あるシグナルを照射すると、別のシグナルは半値幅が変化しないままに伸長し、その積分値が大きくなる現象を発見した。NOEの原理とカゴ形分子での例は報告されていたが、天然有機化合物で実際に観察された最初の例となった。

和田敬爾等（1985年）は銀杏多食による中毒本体は4-O-メチルピリドキシンであることを証明した。ピリドキサルリン酸は glutamate decarboxylase の補酵素で、4-O-メチルピリドキシンはその酵素を



阻害し、グルタミン酸から GABA の生成を抑制する。中毒症状の痙攣発作は GABA 枯渇としてよく説明される。解毒薬はビタミン B6 であることも明らかにされた。

皮膚炎を起こす成分はアナカルデア酸と名付けられ、ウルシのかぶれを起こす成分に似たアルキルフェノール類である。ギンナンの種皮や雄花が皮膚炎を起こしやすい。

ドイツとフランスの会社は茨城・群馬・新潟各県の農家と契約栽培し、年間3,000トンのイチョウの葉を輸入している。アナカルデア酸を除いたイチョウエキスは EGb761 のコード名をつけて、ヨーロッパ諸国、韓国、台湾、マレーシア等で医薬品として認可されている。循環改善、脳血流増加を目的とした医薬品として、1965年から用いられ、1994年にはアルツハイマー病や痴呆の治療薬として認可された。アメリカ医師会も緊急会見を開き、イチョウ葉のエキスが痴呆症に有効であると発表した。

わが国ではイチョウの葉のエキスは医薬品としては認可されておらず、健康食品として市販されている。9～10月の緑色の葉が収穫され、乾燥後エタノールまたは水で抽出される。最近ではエキスがフラボノイド療法の名でヨーロッパから逆輸入されている。

一般にギンナンと呼ばれるのは果実様の種子である。外側の柔らかい臭気の強い肉質部分は種子の外種皮で、皮膚炎を起こす成分も含まれる。その中にある堅い殻は中種皮であり、中心の食用にする部分は胚乳である。素手で外種皮を取り扱くと、人によっては皮膚炎を起こす。治癒に時間がかかることがあるので、用心深くありたい。

松原キャンパスにはイチョウの大木があり、紅葉を眺め、ギンナン採りを楽しんだ。構内の車道にギンナンが落ち、異臭に悩まされ、掃除が一仕事であった。高槻キャンパスに移転するときには、車道近くに植えられた雌木を雄木に交換していただいた。そのために成長が遅れたが、今年には揃って成長すると期待される。高槻キャンパスには雌木はないようである。ギンナン採りの楽しみは少ないと思われるが、異臭に悩まされないことを喜びたい。イチョウが地上に現われた頃の様子を想像し、イチョウにまつわる薬学情報を思い出しながら、新緑や紅葉を楽しみたいと思う。

新入生への皆さんへ

学 長 矢内原 千鶴子

今年は例年になく桜の花を長く楽しむことができました。花開く4月に心新たな大学生活のスタートを切ることができる日本の学校制度の素晴らしさを今更ながらに実感したものであります。それから1ヶ月余り、キャンパスもすっかり新緑に彩られ、真夏のような日差しの中で、生き生きとした息吹が肌を感じられる5月半ば、既に新入生と呼ぶには時期外れの感がする1年次生の皆さん方の活気がそこに溢れています。

本年は、293名の学部学生ならびに45名の大学院学生を迎えました。学部に入學した皆さん方は、受験準備のための長く重苦しい日々した後で、今まさに解放感に溢れていることでしょう。自分自身のことを振り返っても、当時の入試は現在ほど厳しかったとは思いませんが、大学に入り、全てが新鮮で、さらに高校にはなかった人文・社会科学、自然科学分野の目新しい科目がならぶカリキュラムを眺め、胸をわくわくさせたことが思い出されます。

薬学は、基礎科学や応用科学、そして最近では人文・社会科学も含めた幅広い領域から成り立っています。日本薬学会では、薬学を「薬を創る」「薬を理解する」「薬を使う」「薬を考える」「健康を守る」に関連した総合科学としていますが、いずれも“薬”に深く結びついた科学であります。一方、新聞紙上でも頻繁にみられるようになりましたが、今、生命科学は情報科学、情報技術（IT）と協同・融合し、ヒト・ゲノムの構造解析をターゲットとして世界規模での激しい競争を繰り広げています。そうしたゲノム科学研究の膨大な成果は、やがて病気の原因の究明や新薬の開発、そして患者への個別に最適化された薬物治療を可能にするであろうと予測されています。そして皆さん方が社会で活躍される頃には、そうしたことが実現し、医療、特に薬物治療のあり方も大きく変わって行くことも考えられます。したがって「薬を創る」分野のみならず、「薬を使う」医療分野においても、こうした先端科学の進歩は無縁ではありません。将来いずれの職業に就くに

しても、薬学本来の学問領域はいうまでもなく、画期的な高度な先端科学も十分学び理解しておく必要がありましょう。そして、さらに薬学生としてのみならず人間としての豊かな経験を積み、教養人として成長していただきたいと思います。いうまでもなく、薬剤師国家試験合格は、薬学を修めたものにとって当然の必要条件であり、薬剤師免許なくしてはいずれの職責も十分に果たし得ないと考えます。

薬学生は、将来ほとんどが直接・間接に“薬”と関係した職業につくことになるでしょう。「薬を使う」現場で働く病院や薬局の薬剤師というまでもありませんが、「薬を創る」すなわち創薬分野から、「健康を守る」分野まで、薬学出身者には多様な職場が用意されており、職業人としてきわめて恵まれた将来が待っているといえましょう。先日、新入生の皆さんへの薬学概論の最初の時間を担当し、薬学出身者が社会で貢献する様々な分野について概説しましたが、それを聴く熱心な眼差しに、むしろ圧倒されるような気迫を感じました。講義の終わりに書いてもらった感想文には、ほとんど全ての人が薬学出身者の道が大きく多岐にわたって開かれていることをはじめて知り、4年間の大学生活の目的・目標を設定することができた喜びと、社会への責任の重大さを改めて認識したと述べていました。この新鮮な思いをいつまでも失わず、充実した学生生活を送って頂きたいと思います。

大学院へ進学された皆さん方は、4年間の学部の課程で修めた基礎的な薬学の知識と技術を、より学術的に、専門的に高めるための修学であります。将来、社会においてより高度な職能を分担し、指導者となることへの自覚と自負をもってそれぞれの道を究めて下さい。特に、幅広い視野、柔軟な思考能力、正しい判断力、責任感、そして奉仕の精神と他を思う温かい心を併せ持った薬科学者、薬系技術者、薬剤師となるべく有意義な大学院生活を送られることを切に願っています。

特別講演会「女性と人権」を終えて

人権委員会委員長 稲 森 善 彦

グローバル化が加速する世紀の交、人権問題は環境問題とともに、困難を孕みつつも解決を迫られる地球的規模での人類史的課題であるといえよう。「世界人権宣言」の精神の実現を目的として1995年にスタートした「人権教育のための国連10年」、この間、世界各国は人権教育の推進に積極的な取り組みを始め、我が国でも内閣が「国内行動計画」を公表して、「あらゆる場を通して人権教育の推進」を求めている。

本学でも人権委員会を中心に研修・啓発計画が練られ、「人権の世紀に向けて」をモットーに、大学全体として取り組み、継続的な努力を積み重ねていくことになっている。そして、1997年には第1回人権に関する特別講演会「歴史と人権」（講演者：脇田修大阪大学名誉教授）が開催され、98年には第2回特別講演会「医療と人権」（平野武龍谷大学教授）が開催された。

これに続いて昨99年は、「男女雇用機会均等法」が全面施行され「男女共同参画社会基本法」が制定・施行された、人権擁護にとっても記念すべき年であったことに因み、12月17日に「女性と人権」と題して、志水紀代子先生（追手門学院大学教授）を講演者にお迎えして、学生と教職員を対象に人権研修の第3



回特別講演会が行われた。

志水先生は、茨木のり子さんの詩の朗読から始めて、ミニ自分史と戦後の日本史を裏表させながらフェミニズム理論の形成・その問題点を押さえ、ご自身の主張「フェミニズムとボランティア精神の接点」にまで説き及ばれた。「世界の周縁または社会の底辺に位置する立場から全体を見る、見えないもの・弱者の視点に立つ」、そのためには「先ず、聞き取り理解することから」——穏やかな口調で優しく話される先生のご講演は、しかし「甲山事件」『日独裁判官物語』、H. アーレント等を引きつつ厳しく重い内容でもあった。一方、受講した学生は、先生の情熱的なご講演に圧倒されたのか、平素の講義では見られないほど熱心に聴き入り、提出したりポートもまた、皆真面目で、ほぼ的確であった。

医療の一端を担う薬科大学の学生・教職員として、私達は「患者さんのために」と揚言する前に、志水先生の端的でさりげない言葉を、今一度噛み締めたと思う——「自分のことは自分で決める。考えてみれば、それが基本である。自分がそうであれば、他者もそうであることを基本的に認めざるをえない。そのことが人権の原点である」。



大型機器設置報告

研究委員長 石田 寿昌

平成11年度に文部省が募集した私立大学等研究設備整備費補助金対象として、大型共同教育研究機器として申請した下記の装置および設備が採択された。本年3月末までにこれらの機器が全て導入完備され、現在、広く利用されている。

I 生体超分子機能解析システム

(購入価格 46,494,000円, 補助金額 23,247,000円)

本システムは生体分子精製装置, DNA シーケンサー, 円二色性分散計および生体分子構造解析・設計支援コンピュータシステムから構成されている。超分子とは2種類以上の生体分子が会合してできる高次集合体を意味し, 超分子形成によって分子単独では発現できない新たな機能が発揮されるようになる。本システムはこれら超分子の構造と機能の解析を高精度かつ迅速に行うために導入された。NMRやX線回折装置などの本学に現有する解析機器との相補的な併用により, 生体機能の発現メカニズムの解明ならびに新たな機能を有する新規化合物の創生が期待できると共に, 生体分子間の織りなす機能調節の解析を飛躍的に進展させることになるとと思われる。

II 薬物治療管理解析システム

(購入価格 38,400,000円, 補助金額 20,480,000円)

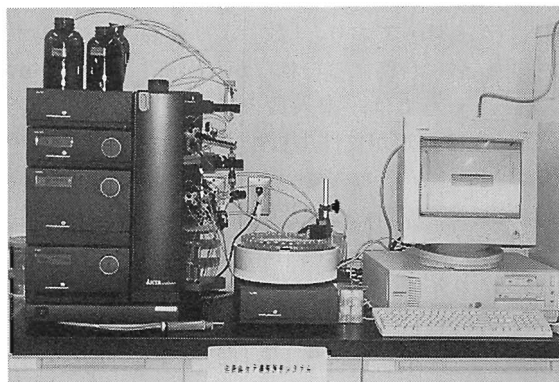
本システムはLC・MSシステム, GC・MCシステムおよびX線スペクトロメータから構成されている。薬物の体内動態を正確にモニターするためには, 血液・尿は当然のこととして, 唾液・脳脊髄液・毛髪・皮膚など, より特殊部位における多成分混合系での微量・高感度な検出が要求される。これを可能にするにはLC・MSシステムとGC・MCシステムの相互利用が不可欠で, また, X線スペクトロメータは生体内微量金属の検出には極めて有効である。

従って, 本システムの効率的な相互利用により初めて臨床における薬物治療の管理解析に参画できると共に, さらに, 薬物治療の解析に必要な基礎的研究や薬物と生体金属の相互作用研究等, 多方面にわたる研究に多大な貢献が期待できる。

III 動的光散乱分子アグリゲーションモニタ

(購入価格 6,142,500円, 補助金額 3,276,000円)

溶液中での生体分子の動的挙動——例えば基質存在下と非存在下での存在様式の差異など——についての情報はその分子構造と機能の関係を理解する上で極めて重要であるが, 特殊な場合を除き, 実験的に調べることは一般に困難な場合が多い。本設備はそのような困難さを解決し, 動的挙動に関する情報を精度良く得ることを可能にする。即ち, 溶液中の分子運動量を直接測定し, そこから運動半径を定量的に解析して分子の動的挙動に関する情報を高い信頼性をもって提供することができるようになる。得られる情報は生体分子に関する物理化学的性質とも相補的な関係にあるため, 溶液中における分子挙動と機能を解明する上で多大な貢献が期待できる。



生体分子精製装置

平成11年度卒業者の進路状況と 平成12年度卒業予定者の進路希望調査

就 職 部

平成11年度卒業者の進路状況

薬系大学卒業生の就職状況は、景気の低迷に加え、薬価切り下げ、患者の医療費負担増を含む医療保険制度改革及び医薬分業の急速な進展により、数年前から急激に変動してきています。企業はリストラをはかり病院薬剤師の数は現状維持か削減の傾向となる一方、調剤業務を含む薬局薬剤師の需要が高まり、その結果、卒業生の就職状況が大きく様変わりしています。更に、就職協定の実質的廃止により企業の就職試験の時期が大幅に繰り上がり（一部は3年次生の2月下旬頃）、また、求人情報にインターネットを利用するところもあり、これらの変動に対応していかねばならない就職活動は伝統ある本学学生といえども大変厳しい状況にあります。

このような状況下で今春卒業した学部学生257名（男66名、女191名）の進路状況は、表1に示すとおりでした。国家試験合格後に進路決定を希望する者を除き、ほぼ100%の進路決定率となっており、次のような特徴がみられます。

1) 薬業関連企業

この分野への就職率は年ごとに低下し、今春卒業生の場合、男子10名、女子34名で、全体の17.1%と、平成10年度（20.4%）より大きく下まわっています。とりわけ内勤領域（研究・開発、学術、品質管理、管理薬剤師）への就職がますます厳しくなって、一部の大企業が採用を見合わせるなど、各企業とも採用人数をしばっており、「数」より「質」を重視する採用試験に合格するのはなかなか厳しいものがあります。一方では、求人数の多い医薬情報担当者（MR）への決定が女性では増えていますが、男性では減少の傾向となっています。

2) 病院・診療所および病院研修生

この職種における就職率は、従来から20数%でしたが平成9年度（20.5%）から減少傾向がみられ、平成11年度は11.3%となりました。医薬分業の促進に加え、昨年厚生省により打ち出された病院における薬剤師の配置基準なども影響します狭き領域になっています。

病院研修生（4.7%）についても研修後の病院への就職が厳しくなっている影響で、減少傾向となっています。

3) 薬局

調剤及びOTCを対象とする薬局への就職率は6～7年前では数%でしたが、平成10年度ではほぼ6倍（25.3%）になり平成11年度ではさらに増えて（26.8%）、最も高い就職率の業種となりました。医薬分業の進展で、調剤薬局の増設が急速に進められつつあり、ここ数年はこの分野での薬剤師の需要は増大し続けるものと思われます。

4) 公務員・教職員

この職域への就職率も従来より下回る傾向で2.3%でした。

5) 大学院進学

大学院進学が22.2%と、平成10年度の2倍と高まっています。これには、文部省が大学院の拡充を強力におし進めていることや、薬系大学の修業年限の延長が議論されていることなどが影響していると思われます。

6) その他

この項の39名の多くは、薬剤師免許取得後にそれを必要とする職種（例えば病院・薬局）への就職を決めようとする者であり、薬剤師国家試験が難しくなっている状況から、このような考え方の学生が多くなってきています。この場合でも、薬剤師免許を取得すればその後には全員就職が決定しています。

一方、大学院修了生の就職は各担当教員の指導のもとで決定され、平成12年3月修了の大学院生（34名）の場合も、ほぼ100%の就職率となっていますが、職種内容の多様化で、「数」より「質」を優先する厳選採用の流れは、さらに強まっています（表2）。

学部卒業生及び大学院修了生の就職先を、表3にまとめました。

平成12年度卒業予定者の就職ガイダンスと進路希望調査

平成13年春に卒業予定の学生の就職に関する調査(朝日新聞)によれば、「二年続きの『氷河期』を脱する見通し」とあり、景気回復傾向を追い風に明るさを取り戻しています。そのような背景から、就職協定廃止4年目を迎えた今年の企業の採用活動は、早期化、長期化、多様化がさらに進む見通しです。この状況に対応すべく新4年次生には、すでに3年次に3回にわたり就職ガイダンス(平成11年9月、12月、平成12年1月)を行いました。第3回目には、本学では2回目の試みとして、製薬会社18社及び薬局11社の参加・協力を得て学内で企業説明会を実施しました。また、3月には学生の職種選択と就職活動の一助として、希望職種別に昨年度の求人先・時期等について紹介しながら、個人面談を行いました。新4年次生の人数は昨年度より多い350名(男子98名、女子252名)で、その進路希望調査結果(表4)によれば、女子の薬業関連企業(営業、内勤)と病院(薬局)への就職希望者数が多いのが特徴です。

表1 平成11年度 学部卒業者 進路状況

(平成12年3月31日現在)

| 区 分 | 男子 | % | 女子 | % | 合計 | % |
|------------|----|--------|-----|--------|-----|--------|
| 薬業関連企業(営業) | 9 | 13.6% | 18 | 9.4% | 27 | 10.5% |
| (内勤) | 1 | 1.5% | 16 | 8.4% | 17 | 6.6% |
| 病院・診療所 | 1 | 1.5% | 28 | 14.7% | 29 | 11.3% |
| 研修生 | 1 | 1.5% | 11 | 5.8% | 12 | 4.7% |
| 薬局 | 10 | 15.2% | 59 | 30.9% | 69 | 26.8% |
| 公務員 | 2 | 3.0% | 3 | 1.6% | 5 | 1.9% |
| 教職 | | | 1 | 0.5% | 1 | 0.4% |
| 大学院・研究生 | 34 | 51.5% | 24 | 12.6% | 58 | 22.6% |
| その他 | 8 | 12.1% | 31 | 16.2% | 39 | 15.2% |
| 合計 | 66 | 100.0% | 191 | 100.0% | 257 | 100.0% |

表2 平成11年度 大学院博士前期(修士)課程修了者進路状況

(平成12年3月31日現在)

| 区 分 | 男子 | % | 女子 | % | 合計 | % |
|------------|----|--------|----|--------|----|--------|
| 薬業関連企業(営業) | 6 | 22.2% | | | 6 | 17.6% |
| (内勤) | 9 | 33.3% | 4 | 57.1% | 13 | 38.2% |
| 病院・診療所 | 2 | 7.4% | | | 2 | 5.9% |
| 研修生 | | | 1 | 14.3% | 1 | 2.9% |
| 薬局 | 1 | 3.7% | 1 | 14.3% | 2 | 5.9% |
| 公務員 | 1 | 3.7% | | | 1 | 2.9% |
| 教職 | | | 1 | 14.3% | 1 | 2.9% |
| 大学院博士課程 | 4 | 14.8% | | | 4 | 11.8% |
| その他 | 4 | 14.8% | | | 4 | 11.8% |
| 合計 | 27 | 100.0% | 7 | 100.0% | 34 | 100.0% |

実際の就職活動は、すでに3月頃から開始され、現在、製薬企業(MR)を中心として就職先が内定しつつあります。今後は調剤薬局・ドラッグストアのセミナーなどで活発化していくものと思われます。今年の薬業関連企業(MR)の求人状況は例年より少し明るさが見えてきましたが、病院は昨年よりさらに厳しさが増し、その反面、調剤薬局・ドラッグストアなどでは求人が激増することが予測され、この変動に学生がいかに対応するかが就職率アップの鍵となると思います。また、特に就職の難しい病院に折角内定しながら薬剤師国家試験不合格によりその職を失う場合があり、これが、本学学生の今後の就職に影響する危惧の念を抱いております。

就職は長い人生のマイルストーンとなるものですが、学生生活の締めくくりとして、しっかりした人生観・職業観に裏打ちされた職業選択を行い、希望に沿った就職ができるよう学生自らの努力は勿論のこと、関係各位におけるご指導・ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

表3 平成11年度(学部・大学院)卒業生進路先

| 企 業(営業) | (合計人数の括弧内は院生数で外数) |
|----------|-------------------|
| キッセイ薬品工業 | 日本イーライリリー |
| 佐藤製薬 | 日本新薬 |
| 三共 | 日本ベーリンガーインゲルハイム |
| 塩野義製薬 | 日本ロシュ |
| 住友製薬 | ノバルティスファーマ |
| 第一製薬 | 萬有製薬 |
| ダイナボット | ファイザー製薬 |
| 武田薬品工業 | 藤本製薬 |
| 田辺製薬 | 三菱東京製薬 |
| 中外製薬 | 山之内製薬 |
| テルモ | |
| | 合計 27(6)人 |

| 企 業(内勤) | |
|---------|------------|
| 上野製薬 | 塩野義製薬 |
| 大塚製薬 | 新日本科学 |
| 小野薬品工業 | 高砂薬業 |
| 共和薬品工業 | テクノーブル |
| 健栄製薬 | 日本たばこ産業 |
| 神戸サン | P & G |
| 興劑 | ビオフェルミン製薬 |
| 盛堂薬 | 藤本製薬 |
| サライヤ | 扶桑薬品工業 |
| 三笑堂 | 山之内製薬 |
| 三屋 | |
| | 合計 17(13)人 |

病院

あびこ病院
石切生喜病院
医誠会病院
岩崎病院(香川県)
上山病院(寝屋川市)
大阪府三島救命救急センター(高槻市)
大阪府薬剤師会試験センター
大西病院(三重県)
交野病院
河内総合病院
キナシ大林病院(高松市)
錦秀会
久藤病院(加賀市)
新淡路病院
住友病院

清恵会(堺市)
瀬田病院
高松平和病院
第一病院(宝塚市)
大和病院(吹田市)
天理よろず相談所病院
東和病院
野田記念病院
野村海浜病院(神戸市)
平成記念病院(奈良県)
三菱京都病院
南大阪病院
美原病院
渡辺胃腸外科病院
合計 29(2)人

公務員

京都市
大阪市
国保ささみ病院(和歌山県西牟婁郡)

市立長浜病院(長浜市)
彦根市民病院(彦根市)
三豊総合病院(香川県三豊郡)
合計 5(1)人

教職員

大阪医科大学

大阪大学医学部附属病院(実験助手)
合計 1(1)人

病院研修生

大阪医科大学附属病院
大阪大学医学部附属病院
岡山大学医学部附属病院
京都大学医学部附属病院

神戸大学医学部附属病院
名古屋大学医学部附属病院
和歌山県立医科大学附属病院
市立岸和田市民病院
合計 12(1)人

薬局

アインファーマシーズ(札幌市)
医薬情報システム開発
うちの薬局(五條市)
大阪薬局
協栄メディカル
協和商事
キリン堂
金峰薬局(鹿児島県)
クラフト
コクミン
ゴダイ(姫路市)
サカエレディ薬局
サンプラザ調剤薬局
白鳥調剤薬局
ジャスコ
シンクス
神薬堂
スズキ薬局(滋賀県)
すみれ薬局(河内長野市)
セガミメディクス

セブンファーマシー
総合メディカル
ダイエー
たんぼ薬局(岐阜県)
津山調剤薬局(岡山県)
ティオーファーマシー(高松市)
東京物産(ばそな薬局)
楠公堂薬局
阪急共栄物産
阪神調剤薬局
稗田薬局
ファーマシー木のうた
フォルサム
法円坂薬局
マツモトキョシ
マルゼン
メディカル・光
森山薬局
ユタカファーマシー
リジョイス薬局
合計 69(2)人

大学院・研究生

大阪薬科大学(博士課程)
岡山大学歯学部(")
高知医科大学(")
大阪市立大学(修士課程)
大阪薬科大学(")
岡山大学(")
金沢大学(")
京都大学(")

神戸大学(修士課程)
静岡県立大学(")
千葉大学(")
東北大学(")
徳島大学(")
大阪大学(研究生)
大阪薬科大学(")
合計 58(4)人

表4 平成12年度 卒業予定者進路希望調査状況

(平成12年4月3日現在)

| 区分 | 男子 | % | 女子 | % | 合計 | % |
|------------|----|--------|-----|--------|-----|--------|
| 薬業関連企業(営業) | 21 | 21.4% | 36 | 14.3% | 57 | 16.3% |
| (内勤) | 3 | 3.1% | 27 | 10.7% | 30 | 8.6% |
| 病院・診療所 | 4 | 4.1% | 83 | 32.9% | 87 | 24.9% |
| 研修 | 1 | 1.0% | 12 | 4.8% | 13 | 3.7% |
| 薬局 | 14 | 14.3% | 48 | 19.0% | 62 | 17.7% |
| 公務員 | 3 | 3.1% | 10 | 4.0% | 13 | 3.7% |
| 大学院・研究生 | 40 | 40.8% | 27 | 10.7% | 67 | 19.1% |
| 自家業・その他 | 12 | 12.2% | 9 | 3.6% | 21 | 6.0% |
| 合計 | 98 | 100.0% | 252 | 100.0% | 350 | 100.0% |

第85回薬剤師国家試験の結果

薬剤師国家試験対策委員長 中元安雄

第85回薬剤師国家試験問題の内容については、基礎薬学（60問）では「考えさせる問題」であり、衛生薬学（40問）では「広範な理解を問う問題」、薬事関連問題（20問）では従来とあまり変化はなく、医療薬学1（60問）では「薬理学に臨床を意識させる問題」、医療薬学2（60問）については従来どおりの問題と思われた。その結果、難易度は去年（78.75%）と同程度（79.14%）と思われま

す。表1には本学の新卒の合格率（87.94%）などが表示してあり、特に問題となる点は2、3年前からその傾向が観察されていましたが、女子の成績が悪いことです（不合格者は男子7名、女子24名）。このことは、表2・表3で見られるように、推薦入試

や薬学総合演習試験のあり方に問題があったのかも知れません。すなわち、薬学総合演習の試験時期を遅らせることで受験生の緊張（集中力）を持続できるのではないか（中だるみの防止）と委員会では検討しております。また、表4からは、クラス別による集中講義（学内教員、業者）、模擬試験（5回）によりそれなりの効果が認められます。

今後の対策としてまず第一に夏休みに業者による集中講義を、第二に各配属教室でのきめ細かい指導（女子の合格率アップ）、第三に成績が悪ければ父母との懇談会（予定）により、合格率90%以上を目標とします。

表1【第85回薬剤師国家試験】

| 区分 | 出願者 (人) | 受験者 (人) | 合格者 (人) | 合格率 (%) |
|------|------------|------------|------------|------------|
| 新 卒 | 男 | 66 | 66 | 89.39% |
| | 女 | 191 | 191 | 87.43% |
| | 計 | 257 | 226 | 87.94% |
| その他卒 | 計 | 126 | 117 | 59.83% |
| 総 数 | 383 | 374 | 296 | 79.14% |
| 全 国 | 12,481 | 11,529 | 9,213 | 79.91% |

表2【入試区分別】

| 区分 | 受験者 (人) | 合格者 (人) | 合格率 (%) | |
|------|------------|------------|------------|---------|
| 一 般 | 男 | 55 | 50 | 90.91% |
| | 女 | 131 | 116 | 88.55% |
| | 計 | 186 | 166 | 89.25% |
| 推 薦 | 男 | 7 | 5 | 71.43% |
| | 女 | 56 | 47 | 83.93% |
| | 計 | 63 | 52 | 82.54% |
| センター | 男 | 4 | 4 | 100.00% |
| | 女 | 4 | 4 | 100.00% |
| | 計 | 8 | 8 | 100.00% |

表3【薬学総合演習再試験受験者別】

| 区分 | 薬総再試 受験者(人) | 合格者 (人) | 合格率 (%) |
|----|----------------|------------|------------|
| 男 | 41 | 36 | 87.80% |
| 女 | 111 | 90 | 81.08% |
| 計 | 152 | 126 | 82.89% |

表4【薬学総合演習クラス別】

| 区分 | 受験者 (人) | 合格者 (人) | 合格率 (%) | |
|----|------------|------------|------------|---------|
| A | 男 | 16 | 15 | 93.75% |
| | 女 | 104 | 98 | 94.23% |
| | 計 | 120 | 113 | 94.17% |
| B | 男 | 8 | 8 | 100.00% |
| | 女 | 24 | 21 | 87.50% |
| | 計 | 32 | 29 | 90.63% |
| C | 男 | 12 | 11 | 91.67% |
| | 女 | 22 | 18 | 81.82% |
| | 計 | 34 | 29 | 85.29% |
| D | 男 | 27 | 23 | 85.19% |
| | 女 | 37 | 29 | 78.38% |
| | 計 | 64 | 52 | 81.25% |

平成12年度入学試験結果と平成13年度入学試験

入試・広報課

平成12年度入試の結果を別表-1に掲げました。新たな選抜方法として導入2年目を迎えた帰国生徒特別選抜（K方式）ではじめての志願者があり、男子1名が入学しました。また調査書を評価に加える一般入試F方式で広島地区に試験場を開設し、受験人口が減少する中、昨年とほぼ同数の延べ志願者がありました。

本学では、絶えず真に実りある薬学教育はどうあるべきかを問い直しながら、社会に貢献できる有為な人材を世に送り出すため、入試制度の見直しを継続的に行ってきています。今年は一昨年に続いて入試制度の大幅な改訂を行い、選抜方法の多様化、評価尺度の多元化、学科試験中心の選抜だけでなく人物重視の選考を加えるなど、別表-2に掲げる入学試験を実施し、受験生により多くの受験機会を提供するなど、資質の異なる受験生を積極的に受け入れようとしています。以下に昨年度入試との相違点を記述します。

◆ 平成13年度入試から次の2つの選抜方法が新たに導入されます。

1. AO入試

人物重視で入学選考を行うAO入試（A方式）が実施されます。本学の教育方針に共感でき、本学で薬学を学ぶことによって自己実現が図れ、薬学の諸分野に進むことに強い希望を有する受験生を対象とします。志願者をもつ潜在的な可能性を重視し、意欲、適性、様々な能力、活動歴など学力以外の個性も、提出書類や面接を通じて多面的に評価されます。優れた学業成績が、個性の一つとして評価対象になることは、言うまでもありません。

2. 編入学制度

大学・短大・高専の卒業生には、本学の2年生に編入できる編入学制度（H方式）が設けられました。◆ 従来から実施されている選抜方法でもいくつか変更になりました。

1. 推薦入試（S方式）

高等学校長の推薦を受け、薬学を学びたいという強い意志を持つ現役生を対象とした推薦入試（S方式）では、出願要件を大幅に緩和し、他大学にも併願が可能な、選択の幅が出来ました。試験についても「総合科目Ⅰ」（理科）・「総合科目Ⅱ」（英語）と明文化し、いずれも基礎学力が試されます。また「小論文」では薬学・医療に携わる者としての使命感や倫理観、学習意欲や目的意識が問われます。なお普段の学習成果を反映させるため、調査書については従来より大幅に評価に取り入れられることになりました。

2. センター試験利用入試（C方式）

センター試験利用入試（C方式）では、英語、数学、国語、理科を受験しなければならない科目としていますが、このうち国語の利用範囲を「近代以降の文章」の範囲に限定すると共に配点も100点に変更し、合計700点で判定がなされます。

3. 一般入試

一般入試では、調査書を評価に取り入れるF方式、理科、英語、数学の3教科の試験が課されるG方式とも基本的な内容に変更はありませんが、一般入試Ⅰ（F方式）で、広島地区の試験会場を、広島国際会議場に変更しました。

別表-1 平成12年度 入学試験結果

| 入学定員 | 推薦入試 (一般公募制) | | | 一般入試C方式 (大学入試センター 試験利用入試) | | | 一般入試F方式 | | | 一般入試G方式 | | | 帰国生徒特別選抜 (K方式) | | | 合計 | | |
|-------|-----------------|-----|-----|---------------------------------|-----|-----|---------|-----|-----|---------|-----|-------|-------------------|---|---|-------|-------|-------|
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 |
| 入学定員 | 240 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 募集人員 | 60 | | | 20 | | | 80 | | | 80 | | | 若干名 | | | 240 | | |
| 志願者 | 33 | 100 | 133 | 243 | 563 | 806 | 318 | 594 | 912 | 609 | 954 | 1,563 | 1 | 0 | 1 | 1,204 | 2,211 | 3,415 |
| 受験者 | 33 | 99 | 132 | 243 | 563 | 806 | 309 | 587 | 896 | 540 | 830 | 1,370 | 1 | 0 | 1 | 1,126 | 2,079 | 3,205 |
| 合格者 | 11 | 51 | 62 | 46 | 116 | 162 | 70 | 168 | 238 | 113 | 198 | 311 | 1 | 0 | 1 | 241 | 533 | 774 |
| 入学者 | 11 | 51 | 62 | 2 | 9 | 11 | 25 | 62 | 87 | 44 | 88 | 132 | 1 | 0 | 1 | 83 | 210 | 293 |
| 実質競争率 | 2.13 | | | 4.98 | | | 3.76 | | | 4.41 | | | — | | | 4.14 | | |

平成13年度 入 学 試 験 概 要

別表－2

| | A O入試 (A方式) | 推薦入試 (S方式) | 帰国生徒特別選抜入試 (K方式) | 編入試 (H方式) |
|-----------------|--|--|---|---|
| 募集人員(薬学部) | 10 名 | 50 名 | 若干名 | 若干名 |
| 出願開始日 | 平成12年 9 月 1 日(金) | 平成12年11月 1 日(木) | 平成12年10月23日(月) | 平成12年 8 月21日(月) |
| 出願締切日 | 平成12年 9 月11日(月) | 平成12年11月 8 日(木) | 平成12年10月30日(月) | 平成12年 8 月31日(木) |
| 入学試験日 | 第2次選考 平成12年10月15日(日) | 平成12年11月12日(日) | 平成12年11月12日(日) | 平成12年 9 月10日(日) |
| 合格発表日 | 平成12年10月31日(火) | 平成12年11月22日(木) | 平成12年11月22日(木) | 平成12年 9 月18日(月) |
| 入学手続・締切日 | 平成12年11月24日(金) | 平成12年12月22日(金) | 平成12年12月22日(金) | 平成12年 9 月29日(金) |
| 試験場 | 本 学 | 本 学 | 本 学 | 本 学 |
| 試験内容 (時間・配点) | 第1次選考 [書類審査] 第1次選考結果発表 10月3日(火) 第2次選考 [学力試験] [面接] 提出書類, 学力試験, 面接 を総合して判定する | [総合科目1] 90分 150点 [総合科目2] 75分 100点 [小論文] 75分 100点 [調査書] 150点 500点及び提出書類を参考に 判定する | [総合科目1] 90分 [総合科目2] 75分 [小論文] 75分 [面接] 総合科目, 小論文, 面接, 提 出書類を総合して判定する | [薬学基礎分野に関する試験] 300点 [基礎教養に関する試験] 100点 [面接] 学力試験(400点), 面接, 提 出書類を総合して判定する |

| | センター試験利用入試 (C方式) | 一般入試 I (F方式) | 一般入試 II (G方式) |
|-----------------|---|--|--|
| 募集人員(薬学部) | 20 名 | 80 名 | 80 名 |
| 出願開始日 | 平成13年 1 月 9 日(火) | 平成13年 1 月 9 日(火) | 平成13年 1 月 9 日(火) |
| 出願締切日 | 平成13年 1 月18日(木) | 平成13年 1 月25日(木) 平成13年 1 月26日(金) のみ持参可 | 平成13年 2 月 2 日(金) 平成13年 2 月 5 日(月) のみ持参可 |
| 入学試験日 | 平成13年 1 月20日(土) 平成13年 1 月21日(日) | 平成13年 2 月 1 日(木) | 平成13年 2 月 9 日(金) |
| 合格発表日 | 平成13年 2 月 7 日(木) | 平成13年 2 月 7 日(木) | 平成13年 2 月16日(金) |
| 入学手続・締切日 | (2段階方式) 1次 平成13年 2 月23日(金) 2次 平成13年 3 月23日(金) | (2段階方式) 1次 平成13年 2 月23日(金) 2次 平成13年 3 月23日(金) | (2段階方式) 1次 平成13年 2 月23日(金) 2次 平成13年 3 月23日(金) |
| 試験場 | | 本学・大阪予備校・広島国際会議場 | 本学・大阪予備校 |
| 試験内容 (時間・配点) | センター試験利用科目 [外国語] 英語 200点 [数 学] 数学 I ・数学 A 100点 数学 II ・数学 B 100点 [国 語] 国語 I, 国語 I ・国語 II から1科目 選択 100点 (近代以降の範囲に限定) [理 科] 化学 I B, 生物 I B, 物理 I Bのう ち高得点科目1科目を採用 200点 個別学力試験 実施しない 700点満点で判定する | [理 科] 90分 100点 化学 I B ・化学 II 生物 I B ・生物 II から1科目選択 [外国語] 75分 75点 英語 I 英語 II リーディング ライティング [数 学] 75分 75点 数学 I 数学 II 数学 A (数と式, 数列) 数学 B (ベクトル, 複素数と複素数 平面) [調査書] 150点 400点満点で判定する | [理 科] 90分 100点 化学 I B ・化学 II 生物 I B ・生物 II から1科目選択 [外国語] 90分 100点 英語 I 英語 II リーディング ライティング [数 学] 90分 100点 数学 I 数学 II 数学 A (数と式, 数列) 数学 B (ベクトル, 複素数と複素数 平面) 300点満点で判定する |

■ 平成12年度 公開教育講座 ■

■ 平成12年度 市民講座 ■

本学主催の公開教育講座は、大阪薬科大学卒業生を対象にした「卒業教育講習会」として1983年に発足したものです。これは全国薬科大学の公開教育講座の中でも長い歴史を持つものの一つであり、参加者は広く他大学出身者も含め多数にのぼっています。本講座は、「薬剤師の生涯教育」に焦点を絞るとともに、全国に先駆けて財団法人薬剤師研修センターとの共催を決定し、現在に至っています。

さて、今年度の公開教育講座は次表の通り開催いたします。病院勤務の薬剤師と薬局勤務の薬剤師とでは、関心の向く方向が異なっていることがアンケート結果から垣間見ることが出来ることから、毎回のテーマ設定を大幅に変えてみました。また新たな企画として、7月には日曜日に開催します。

第24回公開教育講座「心臓移植の最前線」

開催日時：平成12年5月13日(土) 13時30分～17時30分
「心臓移植—医師の立場から—」

国立循環器病センター研究所部長 中谷武嗣

「心臓移植—薬剤師の立場から—」

国立循環器病センター薬剤部主任 上野和行

第25回公開教育講座「在宅医療の現在」

開催日時：平成12年7月23日(日) 13時30分～17時30分
開催場所：大阪薬科大学 講堂

「在宅ケアの実践：在宅ホスピスケアを中心として」

出水クリニック院長 出水 明

「薬局・薬剤師の転換期—薬剤師としての介護保険と医療保険へのかかわり—」

奈良県薬剤師会理事 七海 朗

第26回公開教育講座「EBM」(講演内容等未定)

開催日時：平成12年11月18日(土) 13時30分～(予定)

開催場所：大阪薬科大学 講堂

第27回公開教育講座「医療経済」(講演内容等未定)

開催日時：平成13年2月17日(土) 13時30分～(予定)

開催場所：大阪薬科大学 講堂

人の健康への願い、医療や福祉のありかた、これらは高齢社会の到来とともに大きく変わりつつあります。こうした方向に沿い医療の一端を担う立場から、医薬品や健康についての理解をより深めてもらうべく、「健康とくすり」を大きなテーマとし開催しています。今年度の市民講座は以下のようになっています。それぞれの講演内容は、参加者のアンケート結果を参考に、ニーズの高いものを取り上げてみました。

また市民講座では、〈くすりの相談室〉を併設し、第一線で活躍中の薬剤師が、日頃のくすりに関する悩みや疑問などの相談に応じています。

なお、今年度の市民講座では、薬用植物園委員会の協力を得て、両日とも、〈薬用植物園の見学会〉も併せて行います。

大阪薬科大学第9回市民講座

開催日時：平成12年6月3日(土) 13時30分～16時50分

開催場所：大阪薬科大学 講堂

定員：約350名(申込不要/先着順) 入場料：無料

「高齢者の介護—みる側とみられる側—」

大阪市立弘済院附属病院内科副部長 揖場和子

「痴呆と介護」

阪和第二泉北病院内科部長 山本秀樹

大阪薬科大学第10回市民講座

開催日時：平成12年10月14日(土) 13時30分～16時50分

開催場所：大阪薬科大学 講堂

定員：約350名(申込不要/先着順) 入場料：無料

「民間薬と漢方」

大阪薬科大学教授(生薬学) 草野源次郎

「高齢者の膝の痛み」

関西医科大学名誉教授(整形外科学) 小川亮恵

平成12年度 文部省科学研究費補助金採択状況

| | 職名 | 氏名 | 研究種目 | 研究課題 | 配分額(千円) |
|----|-----------------|-------|----------|---|---------|
| 継続 | 教授 | 栗原 拓史 | 基盤研究(C) | 新規ヒスタミンH ₃ アゴニストImifuramineの開発とその展開 | 600 |
| | 助教授 | 三野 芳紀 | 基盤研究(C) | ダイオキシン類の生物分解と無毒化に関する基礎研究 | 800 |
| | 助手 | 佐久間 寛 | 奨励研究(A) | 分子生物学的手法による腎臓質のアラキドン酸由来生体活性物質産生調節機構の解明 | 700 |
| | 助手 | 藤井 忍 | 奨励研究(A) | B. cereus 菌由来スフィンゴミエリナーゼの立体構造と触媒機構の解明 | 700 |
| | 日本学術振興会外国人特別研究員 | 沈 旭 | 特別研究員奨励費 | 組換えヒトeIF-4Eの構造解析研究 | 800 |
| 新規 | 助教授 | 松村 靖夫 | 基盤研究(C) | エンドセリンET _B 受容体の病態学的役割 | 2,500 |
| | 教授 | 沼田 敦 | 基盤研究(C) | 海洋生物由来菌類の産生する抗腫瘍性シード化合物の探索と開発 | 1,700 |
| | 助手 | 大石 宏文 | 基盤研究(C) | PolyamineとZ-DNAの相互作用に関する分子動力学的およびX線構造研究 | 1,500 |
| | 助教授 | 井上 晴嗣 | 基盤研究(C) | 毒ヘビの血液に存在する3種のホスホリパーゼA ₂ 阻害タンパク質の構造と機能 | 2,700 |
| | 助手 | 平田 雅彦 | 奨励研究(A) | 癌ならびに痴呆の超早期診断を目指したMAPキナーゼ活性診断用新規放射性薬剤の開発 | 1,600 |
| 合計 | | 10人 | | | 13,600 |

総務課だより

◆ 入学式

平成12年4月4日(火)午前10時30分から体育館において、平成12年度大阪薬科大学薬学部並びに大学院入学式(学部293名、大学院博士前期課程44名、博士後期課程1名)が来賓・保護者多数参列のもとに挙行された。



◆ 卒業式・学位記授与式

平成12年3月11日(土)午前10時30分から体育館において、平成11年度大阪薬科大学薬学部卒業式並びに大学院学位記授与式(学部257名、大学院博士前期課程34名)が来賓・保護者多数参列のもとに挙行された。



◆ 実験動物慰霊祭

平成11年12月14日(火)12時30分から講堂において日頃実験動物を取り扱っている教職員、学生等約200名参加のもと、実験動物慰霊祭がしめやかに執り行われた。

教務課だより

◆ 学位授与

[博士]

論博第22号 博士(薬学) 肖 永慶
中国産セリ科植物の成分に関する化学的研究
(平成11年7月21日付)

論博第23号 博士(薬学) 吹上 知穂
Studies on roles of calpain in cataract formation
—白内障発症におけるカルパインの役割に関する研究—
(平成11年8月2日付)

論博第24号 博士(薬学) 芝野真喜雄
コウゾ(*Broussonetia kazinoki* Sieb.)の糖質水
解酵素阻害成分に関する化学的研究
(平成11年10月27日付)

論博第25号 博士(薬学) 慎山 浩史
新規カルシウム拮抗薬 AE0047 の脳循環改善作用
とその作用機序に関する薬理学的研究
(平成12年1月25日付)

論博第26号 博士(薬学) 藤田 克哉
DOCA—食塩誘発性高血圧の発症および維持機構
におけるエンドセリンの病態学的役割に関する研究
(平成12年1月25日付)

* * * * *

[修士]

修士(薬学) 男子 27名 女子 7名 合計 34名
(平成12年3月11日付)

* * * * *

[学士]

学士(薬学) 薬学科 135名 製薬学科 122名
男子 66名 女子 191名 合計 257名
(平成12年3月11日付)



平成12年度前期行事予定

4. 4(火) 入学式(学部・大学院)
 4. 5(水) 新入生ガイダンス・アドバイザー面談
 4. 6(木) 校医講演・新入生健康診断・新入生奨学金ガイダンス
 4. 7(金) 前期授業開始
 4.11(火) 健康診断(新入生以外の学生・教職員の女子)
 4.12(水) 健康診断(新入生以外の学生・教職員の男子)
 4.14(金) 前期選択科目・選択必修科目履修届提出締切
 午後3時(教務課)
 薬学総合演習オリエンテーション(4年次生)
 4.19(水) 第85回薬剤師国家試験合格発表(厚生省)
 5. 9(火) 創立記念日(休業)
 5.12(金) 新入生歓迎会(五月祭)[午後臨時休講]
 6.17(土) 校友会球技大会
 7. 3(月) 平成13年度大学院修士課程推薦入学試験
 7. 6(木) 前期授業終了
 7. 7(金) 前期授業予備日
 7.10(月) 平成13年度大学院修士課程推薦入学試験合格者発表
 7.10(月) 前期定期試験
 7.21(金) 前期定期試験
 7.24(月) 前期定期試験欠席届提出締切 午後1時(教務課)
 8.21(月) 平成13年度大学院修士課程一般入学試験
 8.25(金) 前期再試験受験者発表(4年次生)
 8.28(月) 平成13年度大学院修士課程一般入学試験合格者発表
 9. 1(金) 前期再試験受験者発表(1~3年次生)
 9. 1(金) 前期再試験(4年次生・1~4年次全科目)
 9.19(火) 前期再試験(1~3年次生)
 9.22(金) 前期再試験(1~3年次生)
 9.25(月) 後期授業開始(1~3年次生)
 就職ガイダンス(3年次生)
 9.26(火) 特別再試験受験者発表(4年次生)

図書館だより

◆ 図書館インフォメーションページについて

インターネットアドレス <http://lib2>

図書館では電子図書館機能の充実を目指しており、学内LAN上で、次のような情報を提供しています。便利ですのでおおいにご活用ください。

- 新着案内
毎月新しく入った図書を紹介している新着図書のページ。
- 所蔵図書の検索(Lib Vision)
館内にある図書を簡単に検索して、所蔵状態を確認できる図書検索のページ。
- 文献の取り寄せ
図書館で所蔵していない文献の申し込みができるページ。
- オンラインジャーナルのリンク。
学術雑誌の最新情報にアクセスできるオンラインジャーナルのリンクページ。

学生課だより

◆ 平成12年度 校友会執行委員会

| | | |
|--------|-------|-------------|
| 執行委員長 | 岩佐 知明 | サッカー部 |
| 副執行委員長 | 川邊 由佳 | アルペンスポーツクラブ |
| 総務局長 | 島田 希世 | 旅行写真部 |
| 広報渉外局長 | 安岡 美希 | レボリューション |
| 厚生局長 | 尹 浩子 | 陸上競技部 |
| 体育局長 | 浦田 元樹 | 卓球部 |
| 文化局長 | 吉井 円 | 軽音楽部 |
| 内会計 | 内橋 伸介 | 硬式野球部 |

◆ 平成12年度 大薬実行委員会

| | | |
|--------|-------|----------|
| 実行委員長 | 山本 貢 | バレーボール部 |
| 副実行委員長 | 藤村 重顕 | バドミントン部 |
| 総務局長 | 島田 希世 | 旅行写真部 |
| イベント部長 | 佐々木大介 | 柔道部 |
| 広報部長 | 尹 浩子 | 陸上競技部 |
| 装飾部長 | 安岡 美希 | レボリューション |

学生相談室の開室について

本学では、アドバイザー制度により学生の様々な問題に対処していますが、もう一つの窓口として学生相談室を平成11年12月から本部・図書館棟1階に開設しています。

学生相談室は入学から卒業までの学生生活で直面するいろいろな問題について相談できる場所です。相談は一人でも友だちと一緒にでもかまいません。一人で悩まず気軽に相談室を訪ねてください。予約もできます(相談室前のポスト、白板を利用ください)。直通電話は0726(90)1077です。

【開室時間】

(平成12年) 毎週 木曜日 12:00 ~ 15:00

相談には、板倉佐恵子(臨床心理士)があたります。プライバシーは厳守されますので、学生の皆さんの不利になることはありません。

🌸 健康管理について

毎年4月上旬に、学校保健法、結核予防法に基づいて、定期健康診断が行われます。健康な学生生活を送るためにも必ず受診するようにしてください。ちなみに、平成12年の受診状況は次の通りとなっています。

また、けがや急病などに対処するため本部・図書館棟1階に保健室が設けられています。医薬品、ベッド、車椅子をはじめ全自動身長体重計、全自動血圧計などが備えられています。この保健室には、看護婦が常駐し、応急手当や病院の手配を行うほか、健康相談や指導も行っています。平成11年度の利用状況は次の通りです。

平成12年度学生定期健康診断受診状況 (4/6, 11, 12他)

※全項目受診者数

| 区分 | 1年次生 | 2年次生 | 3年次生 | 4年次生 | M 1 | M 2 | D 1 | D 2 | D 3 | 総計 | |
|-----|-------------------|------------------|------------------|-------------------|-----------------|-----------------|----------------|---------------|----------|---------------------|---------|
| 男子 | $\frac{83}{85}$ | $\frac{27}{117}$ | $\frac{20}{119}$ | $\frac{80}{98}$ | $\frac{20}{26}$ | $\frac{14}{14}$ | $\frac{1}{1}$ | $\frac{2}{2}$ | | $\frac{247}{462}$ | |
| 女子 | $\frac{210}{211}$ | $\frac{28}{212}$ | $\frac{25}{210}$ | $\frac{230}{252}$ | $\frac{11}{18}$ | $\frac{10}{12}$ | | | | $\frac{514}{915}$ | |
| 計 | $\frac{293}{296}$ | $\frac{55}{329}$ | $\frac{45}{329}$ | $\frac{310}{350}$ | $\frac{31}{44}$ | $\frac{24}{26}$ | $\frac{1}{1}$ | $\frac{2}{2}$ | | $\frac{761}{1,377}$ | |
| 受診率 | 99.0% (98.7) | 16.7% (9.6) | 13.7% (7.5) | 88.6% (87.1) | 70.5% (88.0) | 92.3% (94.3) | 100% (66.7) | 100% (←) | — (←) | 55.3% (49.4) | ()内は前年 |

平成12年度胸部X線受診状況 (4/6, 11, 12他)

| 区分 | 1年次生 | 2年次生 | 3年次生 | 4年次生 | M 1 | M 2 | D 1 | D 2 | D 3 | 総計 | 教職員 |
|-----|-------------------|------------------|------------------|-------------------|-----------------|-----------------|----------------|---------------|----------|---------------------|------------------|
| 男子 | $\frac{83}{85}$ | $\frac{28}{117}$ | $\frac{23}{119}$ | $\frac{80}{98}$ | $\frac{20}{26}$ | $\frac{14}{14}$ | $\frac{1}{1}$ | $\frac{2}{2}$ | | $\frac{251}{462}$ | $\frac{47}{81}$ |
| 女子 | $\frac{210}{211}$ | $\frac{45}{212}$ | $\frac{25}{210}$ | $\frac{230}{252}$ | $\frac{14}{18}$ | $\frac{11}{12}$ | | | | $\frac{535}{915}$ | $\frac{15}{37}$ |
| 計 | $\frac{293}{296}$ | $\frac{73}{329}$ | $\frac{48}{329}$ | $\frac{310}{350}$ | $\frac{34}{44}$ | $\frac{25}{26}$ | $\frac{1}{1}$ | $\frac{2}{2}$ | | $\frac{786}{1,377}$ | $\frac{62}{118}$ |
| 受診率 | 99.0% (98.7) | 22.2% (10.8) | 14.6% (8.9) | 88.6% (87.1) | 77.3% (100) | 96.2% (94.3) | 100% (66.7) | 100% (←) | — (←) | 57.1% (50.3) | 52.5% (55.9) |

平成11年度保健室利用状況 (H 11. 4. 1. ~ H 12. 3. 31)

| 月 | 利用者数 | | | 利用内容 | | | | |
|----|-------|-----|-------|------|-----|---------|-----|----|
| | 学生 | 教職員 | 計 | 外科系 | 内科系 | 健康指導・相談 | 休養 | 転送 |
| 4 | 133 | 19 | 152 | 10 | 43 | 93 | 6 | 0 |
| 5 | 343 | 17 | 360 | 49 | 54 | 236 | 21 | 0 |
| 6 | 391 | 14 | 405 | 55 | 56 | 276 | 18 | 0 |
| 7 | 205 | 20 | 225 | 25 | 44 | 146 | 10 | 0 |
| 8 | 55 | 4 | 59 | 4 | 10 | 43 | 2 | 0 |
| 9 | 84 | 14 | 98 | 20 | 21 | 55 | 2 | 0 |
| 10 | 195 | 23 | 218 | 21 | 68 | 110 | 19 | 0 |
| 11 | 112 | 17 | 129 | 16 | 52 | 48 | 13 | 0 |
| 12 | 63 | 14 | 77 | 12 | 32 | 25 | 8 | 0 |
| 1 | 77 | 19 | 96 | 13 | 35 | 45 | 3 | 0 |
| 2 | 35 | 17 | 52 | 4 | 19 | 24 | 5 | 0 |
| 3 | 10 | 9 | 19 | 6 | 10 | 3 | 0 | 0 |
| 合計 | 1,703 | 187 | 1,890 | 235 | 444 | 1,104 | 107 | 0 |

外科系 → ガーゼ交換・湿布交換を含む。

健康指導・相談 → 健康診断受診証明の発行・検尿・血圧検査、身長・体重測定等を含む。

平成12年度学校法人予算について

事務局長 河野 光 次

学校法人大阪薬科大学の平成12年度予算については、理事会の予算編成方針に基づき計3回の予算委員会の審議を経て編成を行ったが、去る平成12年3月15日に開催された理事会および評議員会において承認されたので、資金収支予算書（総括表）を掲載し、その概要を説明したい。

尚、従来は消費収支予算書を掲載し予算の説明を行っていたが、よりわかりやすく説明するために今回より資金収支予算書を用いることとした。

（総括）

平成12年度の収入予算総額（収入の部合計一前年度繰越支払資金）は67億9,930万円、支出予算総額（支出の部合計一次年度繰越支払資金）は59億4,730万円であり、差引8億5,200万円の大幅な収入超過となる。これは、松原校地を35億円で売却し、銀行借入金28億円を一括返済することによる7億円の資金増が主な原因であるが、これを除いても1億5,200万円の収入超過となる予定である。

（学生生徒等納付金収入）

授業料16億600万円、入学金1億7,300万円、施設設備費7億7,300万円他を計上した。

（補助金収入）

私立大学経常費補助金2億3,000万円、施設整備費補助金2,500万円、学術研究振興資金補助金800万円他を計上した。

（資産売却収入）

松原校地の売却代金35億円を計上した。

（事業収入）

昨年11月にオープンした附属薬局の収入予算2億9,900万円他を計上した。

（人件費支出）

教員人件費9億3,940万円、職員人件費3億8,810万円、退職金1億700万円他を計上した。

（管理経費支出）

附属薬局の経費2億6,390万円他を計上した。

（借入金返済支出）

松原校地の売却に伴う銀行借入金の一括返済28億円他を計上した。

（設備関係支出）

教育研究用機器1億1,340万円、図書4,660万円他を計上した。

平成12年度資金収支予算書

〔平成12年4月1日から〕
〔平成13年3月31日まで〕

| 収入の部 (単位 円) | | | |
|-------------|---------------|---------------|---------------|
| 科 目 | 本年度予算額 | 前年度予算額 | 増 減 |
| 学生生徒等納付金収入 | 2,553,000,000 | 2,449,500,000 | 103,500,000 |
| 手数料収入 | 109,100,000 | 101,100,000 | 8,000,000 |
| 寄付金収入 | 8,000,000 | 5,000,000 | 3,000,000 |
| 補助金収入 | 263,200,000 | 283,200,000 | △ 20,000,000 |
| 資産運用収入 | 3,000,000 | 5,000,000 | △ 2,000,000 |
| 資産売却収入 | 3,500,000,000 | 0 | 3,500,000,000 |
| 事業収入 | 301,000,000 | 28,000,000 | 273,000,000 |
| 雑収入 | 95,000,000 | 45,000,000 | 50,000,000 |
| 前受金収入 | 420,000,000 | 420,000,000 | 0 |
| その他の収入 | 136,000,000 | 102,800,000 | 33,200,000 |
| 資金収入調整勘定 | △ 589,000,000 | △ 480,000,000 | △ 109,000,000 |
| 前年度繰越支払資金 | 1,102,000,000 | 983,000,000 | 119,000,000 |
| 収入の部合計 | 7,901,300,000 | 3,942,600,000 | 3,958,700,000 |

| 支出の部 (単位 円) | | | |
|-------------|---------------|---------------|---------------|
| 科 目 | 本年度予算額 | 前年度予算額 | 増 減 |
| 人件費支出 | 1,456,500,000 | 1,367,500,000 | 89,000,000 |
| 教育研究経費支出 | 501,600,000 | 495,800,000 | 5,800,000 |
| 管理経費支出 | 358,500,000 | 92,100,000 | 266,400,000 |
| 借入金等利息支出 | 220,500,000 | 322,400,000 | △ 101,900,000 |
| 借入金等返済支出 | 3,158,500,000 | 363,000,000 | 2,795,500,000 |
| 施設関係支出 | 7,000,000 | 7,300,000 | △ 300,000 |
| 設備関係支出 | 169,400,000 | 292,900,000 | △ 123,500,000 |
| 資産運用支出 | 38,000,000 | 3,000,000 | 35,000,000 |
| その他の支出 | 112,800,000 | 141,100,000 | △ 28,300,000 |
| 〔予備費〕 | 10,000,000 | 10,000,000 | 0 |
| 資金支出調整勘定 | △ 85,500,000 | △ 58,500,000 | △ 27,000,000 |
| 次年度繰越支払資金 | 1,954,000,000 | 906,000,000 | 1,048,000,000 |
| 支出の部合計 | 7,901,300,000 | 3,942,600,000 | 3,958,700,000 |

□ 人 事 □

嘱 託 (平成12年4月1日付 期間1年)

碓井 信二 (教授)
藤田 直 (教授)
三谷 佐孝 (助教授)
柚木 孝士 (校医)

併 任 (平成12年4月1日付)

就 職 部 長 千熊 正彦 (教授) 任期2年
図 書 館 長 沼田 敦 (教授) 任期2年
研究委員長 石田 寿昌 (教授) 任期2年
薬用植物園長 草野源次郎 (教授) 任期1年
実験動物センター長 掛見 正郎 (教授) 任期2年

昇 任 (平成12年4月1日付)

助 手 横濱 理恵 (副手)

採 用 (平成12年4月1日付)

助 手 原田 勇一
事 務 職 員 藤原 昭男

招へい教授 (平成12年4月1日 期間1年)

吉武 彬 (客員研究員)
池澤 宏郎 (客員研究員)
宮嶋孝一郎 (客員研究員)

非常勤講師 (平成12年4月1日付)

秋岡 壽 (臨床医学概論)
今泉 昌利 (臨床医学概論)
太田 光熙 (病態生化学)
片山 善章 (臨床化学)
木村 文治 (臨床医学概論)
小松 敏彦 (体育実技)
斎藤 武 (数学1, 物理学)
塩川 俊男 (裁判化学)
田口 侑男 (数学1, 物理学)
翼 典之 (臨床検査総論)
戸口 始 (剤形設計学)
中塚 宗次 (薬事関連法・制度)
中村 益久 (臨床薬理学)
中村 恵 (ドイツ語I, 基礎ゼミ)

林 大輔 (体育実技)
林 龍平 (人文科学特論1)
藤田 義孝 (フランス語1)
古川 恵三 (臨床医学概論)
榎矢 桂一 (ドイツ語3)
村田 吉郎 (病態生理学1)
望月伸三郎 (体育実技)
榊沢 貴司 (洋書購読ゼミ1)
山内 真理 (英語1)
山元 弘 (免疫学)
和田 武夫 (生物統計学)
渡辺 幹典 (社会科学特論1)
Joseph Michael Jacobs (英語3)
Julianne Gay Whitlam (英語3)

客員研究員 (平成12年4月1日付 期間1年)

中村 益久
岩本 千佳
太田 光熙
奥村 幸治

定年退職 (平成12年3月31日付)

藤田 直 (教授)
三谷 佐孝 (助教授)

退 任 (平成12年3月31日付)

沼田 敦・就職部長 (任期満了)
千熊 正彦・図書館長 (任期満了)
石田 寿昌・研究委員長 (任期満了)
藤田 直・実験動物センター長 (任期満了)
草野源次郎・薬用植物園長 (任期満了)

<海外出張>

掛見正郎教授, 岩永一範助手, 宮崎誠助手
<出張期間:平成12年4月14日~4月22日>
Millennial World Congress of Pharmaceutical
Sciencesにて発表 (San Francisco, USA)

平成12年度
各部・委員会・委員一覧

◎各部署の長
○副委員長

(平成12年5月8日現在)

教務部

中元 安雄 (助教授)
楠瀬 健昭 (助教授)
齊藤 睦弘 (講師)

◎池田 潔 (教授)
黒田 和道 (助教授)
田中 麗子 (助教授)

学生部

土井 勝 (教授)
辻坊 裕 (助教授)
齊藤 睦弘 (講師)

◎稲森 善彦 (教授)
濱中久美子 (助教授)
大桃 善朗 (助教授)

就職部

馬場きみ江 (助教授)
辻坊 裕 (助教授)

◎千熊 正彦 (教授)
有本 正生 (助教授)

図書館

田中 一彦 (教授)
大桃 善朗 (助教授)

◎沼田 敦 (教授)
松島 哲久 (助教授)
井上 晴嗣 (助教授)

研究委員会

田中 一彦 (教授)
井上 晴嗣 (助教授)

◎石田 寿昌 (教授)
有本 正生 (助教授)

広報委員会

沼田 敦 (教授)
玄番 宗一 (教授)
石田 寿昌 (教授)
田中 一彦 (教授)
内田 勝彦 (就職課長)
中山 基宏 (図書課長)
高橋 嘉明 (総務課係長)

◎森 逸男 (教授)
池田 潔 (教授)
稲森 善彦 (教授)
千熊 正彦 (教授)
伊藤 美雄 (事務局次長)
藤田 純生 (学生課長)
古本 浩三 (教務課係長)

公開教育講座委員会

松村 瑛子 (助教授)
辻坊 裕 (助教授)

◎田中 一彦 (教授)
濱中久美子 (助教授)
西野 隆雄 (講師)

市民講座委員会

春沢 信哉 (助教授)
土井 光暢 (助教授)
伊藤 美雄 (事務局次長)

◎玄番 宗一 (教授)
大桃 善朗 (助教授)
西野 隆雄 (講師)
福永 治久 (入試・広報課長補佐)

動物実験委員会

稲森 善彦 (教授)
馬場きみ江 (助教授)
大桃 善朗 (助教授)
松尾 真充 (総務課長)

◎池田 潔 (教授)
加藤 義春 (助教授)
松村 瑛子 (助教授)
安田 正秀 (講師)

薬剤師国家試験対策委員会

赤木 昌夫 (助教授)
松村 靖夫 (助教授)
土井 光暢 (助教授)

◎中元 安雄 (助教授)
三野 芳紀 (助教授)
黒田 和道 (助教授)
安田 正秀 (講師)

医療薬学実習委員会

千熊 正彦 (教授)
赤木 昌夫 (助教授)
三野 芳紀 (助教授)

◎田中 一彦 (教授)
掛見 正郎 (教授)
中元 安雄 (助教授)
西野 隆雄 (講師)

入試制度委員会

千熊 正彦 (教授)
藤田 芳一 (助教授)
辻坊 裕 (助教授)

◎土井 勝 (教授)
加藤 義春 (助教授)
松島 哲久 (助教授)
大桃 善朗 (助教授)

入試委員会

○森 逸男 (教授)
稲森 善彦 (教授)
松村 瑛子 (助教授)

◎矢内原千鶴子 (学長)
池田 潔 (教授)
土井 勝 (教授)
大桃 善朗 (助教授)

大学院小委員会

玄番 宗一 (教授)
千熊 正彦 (教授)

◎森 逸男 (教授)
石田 寿昌 (教授)

カリキュラム委員会

石田 寿昌 (教授)
松島 哲久 (助教授)

◎森 逸男 (教授)
加藤 義春 (助教授)
楠瀬 健昭 (助教授)

薬学教育検討委員会

◎矢内原千鶴子 (学長)

修学指導委員会

○石田 寿昌 (教授)
稲森 善彦 (教授)

◎矢内原千鶴子 (学長)
沼田 敦 (教授)
坂田 勝治 (教授)

人権委員会

池田 潔 (教授)
千熊 正彦 (教授)
加藤 義春 (助教授)
藤田 純生 (学生課長)

◎稲森 善彦 (教授)
坂田 勝治 (教授)
阿部 功 (助教授)
松島 哲久 (助教授)

交通整備委員会

○稲森 善彦 (教授)
河野 光次 (事務局長)

◎矢内原千鶴子 (学長)
池田 潔 (教授)

学生相談室運営委員会

有本 正生 (助教授)
松島 哲久 (助教授)
藤田 純生 (学生課長)

◎稲森 善彦 (教授)
濱中久美子 (助教授)
楠瀬 健昭 (助教授)

総務委員会

森 逸男 (教授)

◎矢内原千鶴子 (学長)
沼田 敦 (教授)

| | | | |
|------------|--------------|-------------|--------------|
| 栗原 拓史 (教授) | 池田 敦 (教授) | 松村 靖夫 (助教授) | 藤本 陽子 (助教授) |
| 稲森 善彦 (教授) | 石田 寿昌 (教授) | 黒田 和道 (助教授) | 大桃 善朗 (助教授) |
| 千熊 正彦 (教授) | 河野 光次 (事務局長) | 秦松 明子 (助手) | 河野 光次 (事務局長) |

予算委員会

矢内原千鶴子 (学長)
森 逸男 (教授)
池田 潔 (教授)
石田 寿昌 (教授)
河野 光次 (事務局長)

◎西村 壯一 (理事長)

藤田 武司 (理事)
沼田 敦 (教授)
稲森 善彦 (教授)
千熊 正彦 (教授)
秋月 延夫 (経理課長)

組換えDNA実験安全委員会

稲森 善彦 (教授)
草野源次郎 (教授)
松島 哲久 (助教授)
黒田 和道 (助教授)
河野 公一 (学外)

◎池田 潔 (教授)

石田 寿昌 (教授)
田中 一彦 (教授)
藤本 陽子 (助教授)
大桃 善朗 (助教授)
松尾 真充 (総務課長)

自己評価委員会

森 逸男 (教授)
栗原 拓史 (教授)
玄番 宗一 (教授)
石田 寿昌 (教授)
千熊 正彦 (教授)

◎矢内原千鶴子 (学長)

沼田 敦 (教授)
池田 潔 (教授)
稲森 善彦 (教授)
坂田 勝治 (助教授)
河野 光次 (事務局長)

バイオハザード予防委員会

池田 潔 (教授)
安田 正秀 (講師)

◎稲森 善彦 (教授)

松村 瑛子 (助教授)

施設委員会

森 逸男 (教授)
藤田 直 (教授)
池田 潔 (教授)
石田 寿昌 (教授)
河野 光次 (事務局長)

◎矢内原千鶴子 (学長)

沼田 敦 (教授)
栗原 拓史 (教授)
玄番 宗一 (教授)
千熊 正彦 (教授)

ケミカルハザード予防管理委員会

石田 寿昌 (教授)
馬場きみ江 (助教授)
有本 正生 (助教授)
辻坊 裕 (助教授)

◎三野 芳紀 (助教授)

千熊 正彦 (教授)
木村捷二郎 (助教授)
藤本 陽子 (助教授)
後久 忠雄 (施設課長)

環境保全委員会

池田 潔 (教授)
掛見 正郎 (教授)
濱中久美子 (助教授)
齊藤 睦弘 (講師)
喜多 俊二 (助手)
後久 忠雄 (施設課長)
鶴田 政樹 (施設課員)

◎石田 寿昌 (教授)

稲森 善彦 (教授)
木村捷二郎 (助教授)
黒田 和道 (助教授)
高岡 昌徳 (助手)
宇佐美吉英 (助手)
増家 博 (学生課主任)

情報科学解析センター運営委員会

沼田 敦 (教授)
稲森 善彦 (教授)
掛見 正郎 (教授)
大石 宏文 (助手)
高橋 正好 (教務課長)
中山 基宏 (図書課長)
澤田あつ子 (図書課係長)

◎石田 寿昌 (教授)

池田 潔 (教授)
土井 勝 (教授)
土井 光暢 (助教授)
伊藤 美雄 (事務局長)
藤田 純生 (学生課長)
古本 浩三 (教務課長)
高橋 嘉明 (総務課係長)

防火対策委員会

森 逸男 (教授)
池田 潔 (教授)
石田 寿昌 (教授)
高橋 正好 (教務課長)
藤田 純生 (学生課長)
中山 基宏 (図書課長)

◎矢内原千鶴子 (学長)

沼田 敦 (教授)
稲森 善彦 (教授)
河野 光次 (事務局長)
松尾 真充 (総務課長)
後久 忠雄 (施設課長)

大型共同機器整備計画委員会

沼田 敦 (教授)
土井 勝 (教授)
田中 一彦 (教授)
木村捷二郎 (助教授)
松村 靖夫 (助教授)

◎石田 寿昌 (教授)

池田 潔 (教授)
千熊 正彦 (教授)
赤木 昌夫 (助教授)
松村 瑛子 (助教授)

省エネルギー委員会

栗原 拓史 (教授)
稲森 善彦 (教授)
河野 光次 (事務局長)

◎矢内原千鶴子 (学長)

池田 潔 (教授)
石田 寿昌 (教授)
後久 忠雄 (施設課長)

薬用植物園

沼田 敦 (教授)
木村捷二郎 (助教授)
田中 麗子 (助教授)
喜多 俊二 (助手)
芝野真喜雄 (助手)

◎草野源次郎 (教授)

馬場きみ江 (助教授)
三野 芳紀 (助教授)
西野 隆雄 (講師)
谷口 雅彦 (助手)
後久 忠雄 (施設課長)

R I 施設運営委員会

玄番 宗一 (教授)
石田 寿昌 (教授)
草野源次郎 (教授)

◎木村捷二郎 (助教授)

稲森 善彦 (教授)
千熊 正彦 (教授)
掛見 正郎 (教授)

実験動物センター運営委員会

藤田 直 (教授)
玄番 宗一 (教授)
田中 一彦 (教授)
松村 靖夫 (助教授)
黒田 和道 (助教授)
安田 正秀 (講師)

◎掛見 正郎 (教授)

池田 潔 (教授)
千熊 正彦 (教授)
松村 瑛子 (助教授)
辻坊 裕 (助教授)
大桃 善朗 (助教授)
西野 隆雄 (講師)

教員研究業績一覽 (1999年)

(1999. 1. 1 ~ 12. 31)

1. 研究学術論文

| 著 者 | 題 目 | 掲 載 誌 |
|--|---|--|
| 土井光暢, 浅野晶子, 石田寿昌, 他 | A β -turn retro-enantiomeric analogue of achatin-I, H-D-Asp- $[\gamma$ CONH]-D-Ala-L-Phe-Gly-OH | Acta Crystallogr. Sect. C, 55, 422 (1999) |
| 土井光暢, 石田寿昌, 他 | The highly solvated structure of theonellapeptolide Id, a tridecapeptide lactone from the Okinawa marine sponge <i>Theonella swinhoei</i> | Acta Crystallogr. Sect. C, 55, 796 (1999) |
| 土井光暢, 浅野晶子, 樽井麻里子, 石田寿昌, 他 | N-[3-(Cytosin-1-yl)propionyl]-L-isoleucine, a heavily hydrated structure with four cytosine-isoleucine hybrids in the asymmetric unit | Acta Crystallogr. Sect. C, 55, 1865 (1999) |
| 土井光暢, 浅野晶子, 石田寿昌, 他 | Crystal structure of hybrid dipeptide, cytosinyl-L-tyrosine | Anal. Sci., 15, 109 (1999) |
| 土井光暢, 樽井麻里子, 石田寿昌, 他 | Crystal structure of cytosine and alanine hybrid dipeptide, cytosine-1-yl-(2-carboxyethyl)-L-alanine | Anal. Sci., 15, 713 (1999) |
| 土井光暢, 浅野晶子, 石田寿昌 | Crystal structure of hybrid dipeptide, (2-carboxyethyl)-cytosine-1-yl-L-threonine monohydrate | Anal. Sci., 15, 1289 (1999) |
| 土井光暢, 石田寿昌, 尹 康子, 他 | Conformational change of ascidiacyclamide caused by asymmetric modification for an isoleucine residue: structural analyses of [Gly], [Leu], and [Phe]ascidiacyclamides by x-ray diffraction and NMR spectroscopy | Biopolymers, 49, 459 (1999) |
| 土井光暢, 他 | Convenient synthesis of cyclohexa[a]pyrrolo[2,1-b][3]benzazepine, a cephalotaxus alkaloid analogue | Heterocycles 51, 2415 (1999) |
| 石田寿昌, 他 | Structural basis of inhibition of cysteine proteases by E-64 and its derivatives | Biopolymers, 51, 99 (1999) |
| 石田寿昌, 真鍋励次郎, 尹 康子, 他 | Copper (II) ion-catalyzed and molecular packing-dependent dimerization of pyridoxal 5-phosphate-pyridoxamine 5-phosphate Schiff base as a structural model for in vitro transformation of amino acid by pyridoxal 5-phosphate: X-ray crystal structural investigation | Bull. Chem. Soc. Jpn., 72, 947, (1999) |
| 石田寿昌, 他 | Phase-transfer catalyzed asymmetric darzens reaction of cyclic α -chloro ketones | Chem. Commun., 49, (1999) |
| 荻野哲也, 鍛治敏夫, 川端光彦, 佐藤和優, 友尾幸司, 石田寿昌 | Function of the propeptide region in recombinant expression of active procathepsin L in <i>Escherichia coli</i> | J. Biochem., 126, 78 (1999) |

| 著 者 | 題 目 | 掲 載 誌 |
|------------------------------------|--|---|
| 陽谷 武, 石田寿昌, 他 | Binding analysis of <i>Xenopus laevis</i> translation initiation factor 4E (eIF4E) in initiation complex formation | J. Biochem., 126, 897 (1999) |
| 尹 康子, 石田寿昌 | Unique molecular conformation of aureobasidin A, a highly amide N-methylated cyclic depsipeptide with potent antifungal activity: X-ray crystal structure and molecular modeling studies | J. Peptide Res., 53, 492 (1999) |
| 尹 康子, 石田寿昌 | Molecular conformation of aureobasidin A, a potent antifungal cyclic depsipeptide: X-ray structure analysis | Peptide Science, 1998, 349 (1999) |
| 石田寿昌, 他 | Phase-transfer-catalyzed asymmetric darzens reaction | Tetrahedron, 55, 6375 (1999) |
| 石田寿昌, 他 | Asymmetric cyclopropanation reaction under phase-transfer catalyzed conditions | Tetrahedron Lett., 40, 4215 (1999) |
| 石田寿昌, 他 | Asymmetric alkylation reaction of α -fluorotetralone under phase-transfer catalyzed conditions | Tetrahedron Lett., 40, 6785 (1999) |
| 大石宏文, 他 | Utility of a diene-tricarbonyliron complex as a mobile chiral auxiliary: Regio- and stereocontrolled functionalization of acyclic diene ligands | J. Am. Chem. Soc., 121, 9143 (1999) |
| 大石宏文, 他 | Crystal structure of a left-handed Z-DNA hexamer, d(CG) ₃ , duplex complexed with synthetic polyamine reveals binding of a polyamine in the minor groove | Nucleosides & Nucleotides, 18, 1567 (1999) |
| 大石宏文, 石田寿昌, 他 | The computational studies on the conformation-stabilizing factors of the left-handed Z-DNA | Nucleosides & Nucleotides, 18, 1571 (1999) |
| 森 逸男, 川勝達也 藤田芳一, 松尾敬子 | Selective spectrophotometric determination of gallium (III) with 2-(5-bromo-2-pyridylazo)-5-diethylaminophenol in the presence of sodium dodecylsulfate and Brij 35 | Anal. Lett., 32, 613 (1999) |
| 藤田芳一, 森 逸男, 松尾敬子 | Spectrophotometric determination of gold (III) by an association complex formation between gold-thiamine and phloxine | Anal. Sci., 15, 1009 (1999) |
| 中川幸代, 森 逸男, 松尾敬子, 重村康之, 藤田芳一 | プロモピロガロールレッドとニオブ(V)を用いる製剤中のマレイン酸クロルフェニラミンの吸光光度定量 | 分析化学, 48, 935 (1999) |
| 森 逸男, 川勝達也 藤田芳一, 松尾敬子 | Selective spectrophotometric determination of palladium (II) with 2-(5-nitro-2-pyridylazo)-5-(N-propyl-N-3-sulfopropylamino) phenol (5-NO ₂ . PAPS) and tartaric acid with 5-NO ₂ . PAPS-niobium (V) complex | Talanta, 48, 1039 (1999) |
| 齋藤睦弘, 前田 綾, 妹尾晴美, 木村裕子, 千熊正彦 | セレン化合物によるラット赤血球の溶血機構に関する研究 | Biomed. Res. Trace Elements, 10, 207 (1999) |

| 著 者 | 題 目 | 掲 載 誌 |
|--|---|--|
| 米田誠治, 大石宏文, 山根浩稔, 幡川道徳, 千熊正彦 | An NMR study and crystal structure of [<i>cis</i> -Pt(NH ₃) ₂ (9EtG-κN ⁷) ₂ (μ-pz)] [NO ₃] ₃ (9EtG·9-ethylguanine) as a model compound for the 1,2-intrastrand GG crosslink | J. Chem. Soc., Dalton Trans., 2959 (1999) |
| 木村捷二郎 | 生薬付着微生物の放射線殺滅菌 | H.10年度放射線利用研究報告 102~105 (1999) |
| 天形太郎, 土井光暢, 東郷真紀子, 箕浦克彦, 沼田 敦 | Dankasterone, a new class of cytotoxic steroid produced by a <i>Gymnascella</i> species from a marine sponge | Chem. Commun., 1321 (1999) |
| 宇佐美吉英, 沼田 敦 | Total syntheses of trichodenones A-C | Synlett, 723 (1999) |
| 岩本千佳, 箕浦克彦, 岡 俊英, 太田尚稔, 沼田 敦, 他 | Absolute stereostructures of novel cytotoxic metabolites, penostatins A-E, from a <i>Penicillium</i> species separated from an <i>Enteromorpha</i> alga | Tetrahedron, 55, 14353 (1999) |
| 春沢信哉, 今津友成, 高嶋誠一郎, 荒木理佐, 大石宏文, 栗原拓史, 他 | Synthesis of 4(5)-[5-(aminomethyl)-tetrahydrofuran-2-yl- or 5-(aminomethyl)-2,5-dihydrofuran-2-yl] imidazoles by efficient use of a PhSe group: Application to novel histamine H ₃ -ligands | J. Org. Chem., 64, 8608 (1999) |
| 春沢信哉, 今津友成, 高嶋誠一郎, 荒木理佐, 大石宏文, 栗原拓史, 他 | Synthesis of imifuramine and its stereoisomers exhibiting histamine H ₃ -agonistic activity | Tetrahedron Lett., 40, 2561 (1999) |
| 浦田秀仁, 宮腰英貴, 袖本晃司, 赤木昌夫 | Racemic synthesis of carbocyclic purine nucleoside analogues with restricted glycosyl conformation | J. Chem. Soc., Perkin Trans., 1, 1833 (1999) |
| 三野芳紀, 岩尾美喜子 | Protein chemotaxonomy of the Solanaceae. VI. Amino acid sequence of ferredoxin from <i>Nicotiana tabacum</i> . | Biol. Pharm. Bull., 22, 96 (1999) |
| 芝野真喜雄, 中村仁子, 元屋尚美, 草野源次郎 | Studies on the constituents of <i>Broussonetia</i> species. V. Two new pyrrolidine alkaloids, broussonetines K and L, as inhibitors of glycosidase, from <i>Broussonetia kazinoki</i> SIEB. | Chem. Pharm. Bull., 47, 472 (1999) |
| 草野昭子, 高平正行, 芝野真喜雄, 草野源次郎, 他 | Studies on the constituents of <i>Cimicifuga</i> species. XXVI. Twelve new cyclolanostanol glycosides from the underground parts of <i>Cimicifuga simplex</i> WORMSK. | Chem. Pharm. Bull., 47, 511 (1999) |
| 芝野真喜雄, 塚本大介, 草野源次郎 | A new pyrrolizidine alkaloid, broussonetine N, as an inhibitor of glycosidase, from <i>Broussonetia kazinoki</i> SIEB. and absolute stereostructures of broussonetines A and B. | Chem. Pharm. Bull., 47, 907 (1999) |
| 草野昭子, 芝野真喜雄, 草野源次郎, 他 | Studies on the constituents of <i>Cimicifuga</i> species. XXVII. Malonyl cyclolanostanol glycosides, from the underground parts of <i>Cimicifuga simplex</i> WORMSK. | Chem. Pharm. Bull., 47, 1175 (1999) |
| 芝野真喜雄, 草野源次郎, 他 | Studies of the Egyptian traditional folk medicines. III. A new diprenylated 3-aryl coumarin from Egyptian licorice | Heterocycles, 51, 387 (1999) |

| 著 者 | 題 目 | 掲 載 誌 |
|--|--|---|
| 三野芳紀, 岩尾美喜子 | Protein chemotaxonomy of the Solanaceae. VII. Amino acid sequence of ferredoxin from <i>Capsicum annuum</i> | Nat. Med., 53, 37 (1999) |
| 芝野真喜雄, 抜井久志, 喜多俊二, 草野源次郎, 他 | Studies on index compounds for HPLC analysis of <i>Glycyrrhiza macedonica</i> | Nat. Med., 53, 166 (1999) |
| 三野芳紀 | ダイオキシン類の生物分解と無毒化に関する基礎研究 | 特産情報, 20, 58 (1999) |
| 谷口雅彦, 藪 明子, 羽田谷介, 馬場きみ江, 他 | Rivulobirin E and rivulotririn C from <i>Pleuro-spermum rivulorum</i> | Chem. Pharm. Bull., 47, 713 (1999) |
| 桐村和義, 池田純子, 阪口眞人, 馬場きみ江, 藤田 直, 他 | Effects of a lipoxygenase inhibitor, panaxynol, on vascular contraction induced by angiotensin II | Jpn. J. Pharmacol., 80, 89 (1999) |
| 阪口眞人, 馬場きみ江, 他 | Effect of daphnodorin A, daphnodorin B and daphnodorin C on human chymase-dependent angiotensin II formation | Life Sci., 64 1889 (1999) |
| 中田功二, 谷口雅彦, 馬場きみ江, 他 | Three chalcones from <i>Angelica keiskei</i> | Nat. Med., 53, 329 (1999) |
| 田中麗子, 青木 仁, 和田俊一, 松永春洋 | Two novel lanostane-type triterpenes from the stem bark of <i>Abies mariesii</i> | J. Nat. Prod., 62, 198 (1999) |
| 田中麗子, 粕淵一顕, 喜多俊二, 松永春洋 | Obtusifoliol and related steroids from the whole herb of <i>Euphorbia chamaesyce</i> | Phytochemistry, 51, 457 (1999) |
| 田中麗子, 辻本和広, 松永春洋 | Two serratane triterpenes from the stem bark of <i>Picea jezoensis</i> var. <i>hondoensis</i> | Phytochemistry, 52, 1581 (1999) |
| 大津博則, 田中麗子, 松永春洋, 他 | Anti-tumor-promoting rearranged abietane diterpenes from the leaves of <i>Larix kaempferi</i> | Planta Med., 65, 664 (1999) |
| 田中麗子, 熊谷 毅, 尹 康子, 石田寿昌 松永春洋, 他 | Piceanonols A, and B, triterpenoids bearing a novel skeletal system isolated from the bark of <i>Picea jezoensis</i> var. <i>hondoensis</i> | Tetrahedron Lett., 40, 6415 (1999) |
| 大津博則, 岩本 学, 大石宏文, 松永春洋, 田中麗子 | Standishinal, a novel carbon skeletal diterpene from the bark of <i>Thuja standishii</i> (Gord.) Carr | Tetrahedron Lett., 40, 6419 (1999) |
| 奥村幸治, 増井邦晴, 井上晴嗣, 池田 潔, 林 恭三 | Purification, characterization and cDNA cloning of a phospholipase A ₂ inhibitor from the serum of the non-venomous snake <i>Elaphe quadrivirgata</i> | Biochem. J., 341, 165 (1999) |
| 奥村幸治, 井上晴嗣, 池田 潔, 林 恭三 | cDNA cloning and bacterial expression of phospholipase A ₂ inhibitor PLI α from the serum of the chinese mamushi, <i>Aghkistrodon blomhoffii siniticus</i> | Biochim. Biophys. Acta, 1441, 51 (1999) |
| 奥村幸治, 井上晴嗣, 大蔵直樹, 池田 潔, 林 恭三 | cDNA cloning of the two subunits of phospholipase A ₂ inhibitor PLI γ from blood plasma of the chinese mamushi, <i>Aghkistrodon blomhoffii siniticus</i> | IUBMB Life, 48, 99 (1999) |

| 著 者 | 題 目 | 掲 載 誌 |
|---|--|--|
| 大蔵直樹, 北原佳也, 井上晴嗣, 池田 潔, 林 恭三 | Isolation and amino acid sequence of a phospholipase A ₂ inhibitor from the blood plasma of the sea krait, <i>Laticauda semifasciata</i> | J. Biochem., 125, 375 (1999) |
| 藤井 忍, 緒方賢次, 井上文平, 井上晴嗣, 池田 潔, 池沢宏郎, 他 | Roles of Asp126 and Asp156 in the enzyme function of sphingomyelinase from <i>Bacillus cereus</i> | J. Biochem., 126, 90 (1999) |
| 豊元 操, 井上晴嗣, 池田 潔, 林 恭三, 他 | Stimulation of nerve growth factor synthesis /secretion by 5-deazaflavoquinone in mouse astrocytes | J. Biochem. Mol. Biol. & Biophys., 3, 231 (1999) |
| 藤井 忍, 池田 潔, 他 | The Inhibitory mechanism of bovine pancreatic phospholipase A ₂ by aldehyde terpenoids | Tetrahedron, 55, 1657 (1999) |
| 井上晴嗣, 池田 潔, 他 | Blomhotin: a novel peptide with smooth muscle contractile activity identified in the venom of <i>Aghkistrodon halys blomhoffii</i> | Toxicon, 37, 1761 (1999) |
| 藤本陽子, 佐久間覚, 角森正英, 隅谷俊紀, 藤田 直 | Sphingomyelin inhibits platelet 12-lipoxygenase activity | Eur. J. Pharmacol., 378, 233 (1999) |
| 佐久間覚, 藤本陽子, 吉村真理, 佐伯和毅, 向井明子, 秋本 学, 藤田 直 | Effect of 13-hydroperoxyoctadecadienoic acid on the supply of arachidonic acid for prostaglandin synthesis from arachidonoyl-CoA mediated by the cytosolic or microsomal acyl-CoA hydrolase in rabbit kidney medulla | IUBMB Life, 48, 539 (1999) |
| 佐久間覚, 藤本陽子, 沢田崇史, 佐伯和毅, 秋本 学, 藤田 直 | Existence of acyl-CoA hydrolase-mediated pathway supplying arachidonic acid for prostaglandin synthesis in microsomes from rabbit kidney medulla | Prostaglandins & other Lipid Mediators, 57, 63 (1999) |
| 阪口真人, 桐村和義, 池田淳子, 馬場さきみ江, 藤田 直, 他 | Effects of a new 12-lipoxygenase inhibitor, daphnodorin A, on angiotensin II-induced vascular contraction in hamster | Prostaglandins Leukot. Essent. Fatty Acids, 60, 135 (1999) |
| 佐久間覚, 藤本陽子, 北尾晃徳, 坂本英弘, 西田裕子, 藤田 直 | Simultaneous measurement of prostaglandin and arachidonoyl CoA formed from arachidonic acid in rabbit kidney medulla microsomes: the roles of Zn ²⁺ and Cu ²⁺ as modulators of formation of the two products | Prostaglandins Leukot. Essent. Fatty Acids, 61, 105 (1999) |
| 掛見正郎, 岩永一範, 上原由理子, 他 | Tracheal barrier and the permeability of hydrophilic drugs and dipeptides | Biol. Pharm. Bull., 22, 510 (1999) |
| 掛見正郎, 岩永一範, 勝又英之, 藪田俊之, 他 | Surfactant-free preparation of biodegradable hydrogel microspheres for protein release | J. Bioactive Compatible Polymers, 14, 371 (1999) |
| 岩永一範, 小野 聡, 成岡浩二, 掛見正郎, 他 | Application of surface-coated liposomes for oral delivery of peptide: Effects of coating the liposome's surface on the GI transit of insulin | J. Pharm. Sci., 88, 248 (1999) |
| 西野隆雄, 横浜理恵, 他 | 黄連解毒湯の主成分である genipospide の血中濃度に及ぼすヒスタミン H ₂ 拮抗剤 famotidine の影響 | 近畿中央病院医学雑誌, 20, 75 (1999) |

| 著 者 | 題 目 | 掲 載 誌 |
|--|---|--|
| 田中一彦, 他 | CAPD 腹膜炎におけるイセバマイシンの投与方法の検討 | TDM 研究, 16, 299 (1999) |
| 田中一彦, 他 | 血液透析患者のジゴキシン様免疫反応因子 (DLIF) について | TDM 研究, 16, 334 (1999) |
| 田中一彦, 他 | 牛血漿を用いた各種血液浄化法における再生セルロース膜による薬物除去性能 | 臨床透析, 15, 1609 (1999) |
| 田中一彦, 他 | Famotidine の蓄積による白血球減少症, 血小板減少症が疑われた透析症例 | 臨床薬理, 30, 745 (1999) |
| 松村靖夫, 平 志麻, 北野利佳, 橋本哲郎, 黒 敏彦 | Selective antagonism of endothelin ET _A or ET _B receptor in renal hemodynamics and function of deoxycorticosterone acetate-salt-induced hypertensive rats | Biol. Pharm. Bull., 22, 858 (1999) |
| 松村靖夫, 只野清史, 山崎智之 | Renal haemodynamic and excretory responses to bradykinin in anaesthetized dogs | Clin. Exp. Pharmacol. Physiol., 26, 645 (1999) |
| 光富直子, 明石千登世, 小田切淳子, 松村靖夫 | Effects of endogenous and exogenous nitric oxide on endothelin-1 production in cultured vascular endothelial cells | Eur. J. Pharmacol., 364, 65 (1999) |
| 高岡昌徳, 伊藤 誠, 林 聖也, 黒 敏彦, 松村靖夫 | Proteasome participates in the pathogenesis of ischemic acute renal failure in rats | Eur. J. Pharmacol., 384, 43 (1999) |
| 松村靖夫, 橋本哲郎, 平 志麻, 黒 敏彦, 北野利佳, 大喜多守, 高岡昌徳, 他 | Different contributions of endothelin-A and endothelin-B receptors in the pathogenesis of deoxycorticosterone acetate-salt induced hypertension in rats | Hypertension, 33, 759 (1999) |
| 只野清史, 山崎智之, 松村靖夫 | Inhibitory effects of proadrenomedullin N-terminal 20 peptide on antidiuresis and norepinephrine overflow induced by stimulation of renal nerves in anesthetized dogs | J. Pharmacol. Exp. Ther., 288, 522 (1999) |
| 黒 敏彦, 小林 豊, 高岡昌徳, 松村靖夫 | Protective effect of KB-R7943, a novel Na ⁺ /Ca ²⁺ exchange inhibitor, on ischemic acute renal failure in rats | Jpn. J. Pharmacol., 81, 247 (1999) |
| 河合悦子, 玄番宗一, 他 | Protective effects of some flavonoids on the renal cellular membrane | Exp. Toxic. Pathol., 51, 9 (1999) |
| 玄番宗一, 他 | Skin toxicity of propranolol in guinea pigs | J. Toxicol. Sci., 24, 103 (1999) |
| 米花 務, 玄番宗一 | Ameliorative effect of adenosine on hypoxia-reoxygenation injury in LLC-PK ₁ , a porcine kidney cell line | Jpn. J. Pharmacol., 80, 163 (1999) |
| 稲森善彦, 篠原佐夜, 辻坊 裕, 他 | Antimicrobial activity and metalloprotease inhibition of hinokitiol-related compounds, the constituents of <i>Thujopsis dolabrata</i> S. and <i>Z. hondai</i> MAK. | Biol. Pharm. Bull., 22, 990 (1999) |

| 著 者 | 題 目 | 掲 載 誌 |
|--|--|---------------------------------------|
| 辻坊 裕, 沼田 敦, 稲森善彦, 他 | Inhibitory activities of 2-pyridinecarboxylic acid analogs on phyto-growth and enzymes | Biol. Pharm. Bull., 22, 1234 (1999) |
| 辻坊 裕, 畠野尚哉, 岡本孝史, 遠藤 博, 宮本勝城, 稲森善彦 | Synthesis of chitinase in <i>streptomyces thermoviolaceus</i> is regulated by a two-component sensor-regulator system | FEMS Microbiol. Lett., 181, 83 (1999) |
| 辻坊 裕, 近藤則彦, 田中恵子, 宮本勝城, 馬場 直, 稲森善彦 | Molecular analysis of the gene encoding a novel transglycosylative enzyme from <i>Alteromonas</i> sp. Strain O-7 and its physiological role in the chitinolytic system | J. Bacteriol., 181, 5461 (1999) |
| 辻坊 裕, 他 | Characterization of a bacterium (A-1) that decomposes ferric chelate of EDTA in photographic processing waste solutions | J. Health Sci., 45, 37 (1999) |
| 坂口 実, 藤森毅至, 佐藤友子, 松村瑛子, 他 | Effects of opioids on neuronal survival in culture of embryonic chick dorsal root ganglion neurons | Neuroscience Lett., 262, 17 (1999) |
| 土井 勝 | Lepton number violating $e^-W^+ \rightarrow e^+W^-$ and $e^-e^- \rightarrow W^-W^-$ processes in the left-right gauge model | Prog. Theor. Phys., 101, 639 (1999) |
| 濱中久美子 | ル・フォールにおけるプロテスタントの扱いについて—エーデルガルトとマリ・デュラン | ばいであ, 23, 59 (1999) |
| 楠瀬健昭 | 「わかれば、かくも甘い悲しみ」 | とい, XIX, 14 (1999) |

2. 総説・解説

| 著 者 | 題 目 | 書名または掲載誌 (出版社) |
|------------|-----------------------------------|---|
| 大石宏文, 石田寿昌 | Macintosh を用いた薬学生へのコンピュータ教育と評価 | 平成11年度情報処理教育研究集会講演論文集, 11, 445 (1999) |
| 藤田芳一 | レイリー散乱光を用いる生体高分子物質の定量 | ぶんせき, 53 (1999) |
| 佐藤卓史 | 抗体は金属を認識するか? | ファルマシア, 35, 474 (1999) |
| 木村捷二郎 | 生薬製剤の製造工程と殺滅菌用線源の選択 | J. Antibact. Antifung. Agents, 27, 671 (1999) |
| 浦田秀仁 | リボースのキラリティーが核酸の高次構造に及ぼす影響と新規機能の創製 | 薬学雑誌, 119, 689 (1999) |
| 田中麗子, 松永春洋 | トウダイグサ科及びマツ科植物のテルペノイド及びステロイド | 薬学雑誌, 119, 319 (1999) |
| 岩永一範 | ヒトにおける経口吸収予測のための合理的手法 | Pharm Tech Japan, 15, 1023 (1999) |

| 著 者 | 題 目 | 書名または掲載誌 (出版社) |
|---------------|---------------------------------------|--|
| 掛見正郎 | 近畿地区での病院実務実習—現状の評価とその問題点— | ファルマシア, 35, 155 (1999) |
| 掛見正郎 | 薬剤師国家試験の問題点 | 生命とくすり, 15, 2 (1999) |
| 西堀崇子, 田中一彦, 他 | 薬物血中濃度測定機器 | 医薬ジャーナル, 35, 1953 (1999) |
| 田中一彦, 他 | 透析と薬物療法: 中枢神経系用薬, その他 | 月刊薬事, 41, 75 (1999) |
| 田中一彦, 他 | 透析と薬物療法: 抗がん剤 | 月刊薬事, 41, 721 (1999) |
| 田中一彦, 他 | 腎不全専門病院の病棟活動と TDM | TDM 研究, 16, 319 (1999) |
| 田中一彦, 他 | アセタゾラミド | 日本臨床, 57, 440 (1999) |
| 田中一彦, 他 | TDM の臨床応用 | 臨床検査, 43, 17 (1999) |
| 松村瑛子 | 酸化酵素による安息香酸誘導体の呈色反応とその反応を利用した酵素分析法の開発 | Foods & Food Ingredients J. Jpn., 179, 11 (1999) |
| 三谷佐孝 | Does John the Baptist belong to God? | ばいであ, 23, 99 (1999) |

3. 著書

| 著 者 | 題 目 | 出 版 社 |
|---------------------------|--|-----------------------------|
| 石田寿昌, 山元 敦, 友尾幸司 | Difference of structural requisite in design of inhibitor of cathepsin B and papain: X-ray crystal structures of complexes 「Peptide Science-Present and Future」 | Kluwer Academic Pub. (1999) |
| 千熊正彦, 他 | 分析化学ワークブック | 南江堂 (1999) |
| 木村捷二郎 | 電離放射線を用いた生薬の微生物汚染対策 日本防菌防霉学会編「21世紀の生薬・漢方製剤」 | 繊維社 (1999) |
| 草野源次郎, 馬場きみ江, 他 | 薬用植物 改訂第5版 | 南江堂 (1999) |
| 草野源次郎, 他 | 自然百科シリーズ5, 宮城のきのこ | 河北新報社 (1999) |
| 草野源次郎, 草野昭子, 他 | 処方医薬品情報事典, PDR日本語版 | 産業調査会 事典出版センター (1999) |
| 掛見正郎, 岩永一範, 宮崎 誠, 榊引俊宏, 他 | 難水溶性薬物のための, 最適脂質分散系経口投与製剤の開発 「DDS研究の進歩 (Progress in Drug Delivery System) Ⅷ」 | 静岡 DDS 研究会 (1999) |
| 掛見正郎 | 医療薬学実務実習に対する評価と課題—卒前の実務実習と地区協議会の在り方— 城武昇一 編, 「科学的薬物療法と患者本位の医療をめざして」 | 薬事日報社 (1999) |

| 著 者 | 題 目 | 出 版 社 |
|------------------------------|---------------------------------|--------------|
| 掛見正郎, 他 | 医療薬学 第3版 | 広川書店 (1999) |
| 掛見正郎, 中元安雄, 田中一彦, 西野隆雄, 他 | 薬学生のための 病院・薬局実務実習の手引き 1999年版 | 薬業時報社 (1999) |
| 掛見正郎, 中元安雄, 田中一彦, 西野隆雄, 他 | 薬学生のための 病院・薬局実習用薬品集 1999年版 | 薬業時報社 (1999) |
| 掛見正郎, 他 | 薬剤師のための 常用医薬品情報集99年版 | 広川書店 (1999) |
| 西野隆雄, 他 | わかりやすい調剤学 第3版 | 広川書店 (1999) |
| 田中一彦, 他 | 透析患者への投薬ガイドブック | 薬業時報社 (1999) |
| 松村靖夫, 他 | グッドマン・ギルマン薬理書第9版 上巻 | 広川書店 (1999) |
| 松村靖夫, 他 | 最新基礎薬理学 | 広川書店 (1999) |
| 松村靖夫, 他 | 薬理学 | ミクス (1999) |
| 河合悦子, 玄番宗一, 他 | 薬理学実習の実際とデータの見方 | 南山堂 (1999) |
| 中元安雄, 他 | 1999年版 例題+ポイント 基礎薬学 | 広川書店 (1999) |
| 中元安雄, 他 | 2000年版 薬剤師国家試験対策 医療薬学Ⅶ | 広川書店 (1999) |
| 中元安雄, 他 | 2000年版 医薬品情報集 | 広川書店 (1999) |
| 坂田勝治, 他 | 医学英和辞典 | 研究社 (1999) |

4. その他

| 著 者 | 題 目 | 書名または掲載誌 |
|-------|--|---------------------|
| 馬場きみ江 | 「アシタバ茶」で悩みの症状すべて解決 | 健康, 1, 176 (1999) |
| 馬場きみ江 | 紅参の生薬製剤 | 健康, 1, 208 (1999) |
| 松村靖夫 | ゴマは常食すれば高血圧を予防し心臓肥大にも効果的と最新の実験でわかった | 安心, 9月号, 168 (1999) |
| 松村靖夫 | 高血圧病変の発症と進展におけるエンドセリン ET _A および ET _B 受容体の役割 | 血管, 22, 53 (1999) |
| 松村靖夫 | 高血圧を改善し心臓病や動脈硬化を防ぐ黒ゴマの薬効のしくみが実験で解明 | 壮快, 8月号, 104 (1999) |

編集後記

旧キャンパス（松原・高見の甲）を知る学生（大学院生の一部を除いて）は卒業して、かつてを回顧するのは大学に勤める我々教職員のみとなった。

政治の世界では、この6月初めに衆議院解散、6月下旬に総選挙が行われ、新しい体制(?!)が決まるかもしれない。まもなく、新たな1000年への幕開けを迎える。これを機会に、私自身「新たな考え」に立って行動すべきかと思うこと、しばしば!!

皆様、大学が発行する学報等の企画等に関してご意見を入試・広報課までお寄せ下さい。

[MY生]

広報委員会 学報編集ワーキンググループ

森 逸男, 千熊 正彦
加藤 義春, 有本 正生
安田 正秀, 伊藤 美雄
福永 治久

葯

発行

大阪薬科大学広報委員会

〒569-1004 大阪府高槻市奈佐原4-20-1

TEL (0726) 90-1000 (代表)

FAX (0726) 90-1005

URL : <http://www.oups.ac.jp>